



オートデスクの共通データ環境

# Autodesk Docsを使いこなせ！

ビギナー向けからビジネス分析まで

オートデスク株式会社 技術営業本部 シャフ愉季  
AECソリューションエンジニア

# 本セミナー内容



共通データ環境  
(CDE)  
概要・目的



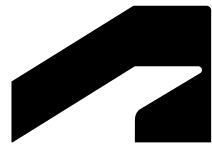
DXにおける  
CDEとは？



クラウド製品概要  
+  
Autodesk Docs  
活用5ステップ



プロジェクト  
データ活用思考



# CDE概要・目的

CDEの定義とISO規格関係

# CDE (Common Data Environment)とは？

共通データ環境



誰がどこで定義？



# CDE (Common Data Environment)とは？

共通データ環境

誰がどこで定義？

マーヴィン・リチャーズ 英国規格協会 (BSI)  
BS1192-2007/BIP2207



**bsi.**

# CDE (Common Data Environment)とは？

共通データ環境

誰がどこで定義？

マーヴィン・リチャーズ 英国規格協会 (BSI)  
BS1192-2007/BIP2207

※定義は歴史とともに改訂され、BS1192と置き換えられた、  
PAS1192:2014 3.1.10、ISO 19650-1 3.3.15 で定義

bsi.

BS1192



+

PAS 1192-2



=

ISO 19650-1&2



UK BIM Standard

International Standard

# CDE 目的と効果

## 共通データ環境

- **イギリスで規格が作成された背景・課題：**
  - 建設情報の準備や調整が不十分
  - 建設情報の作成、配布、品質を管理する規定



参考記事：[ISO 19650, 共通データ環境, CDE, Autodesk Construction Cloud | Autodesk University](#)

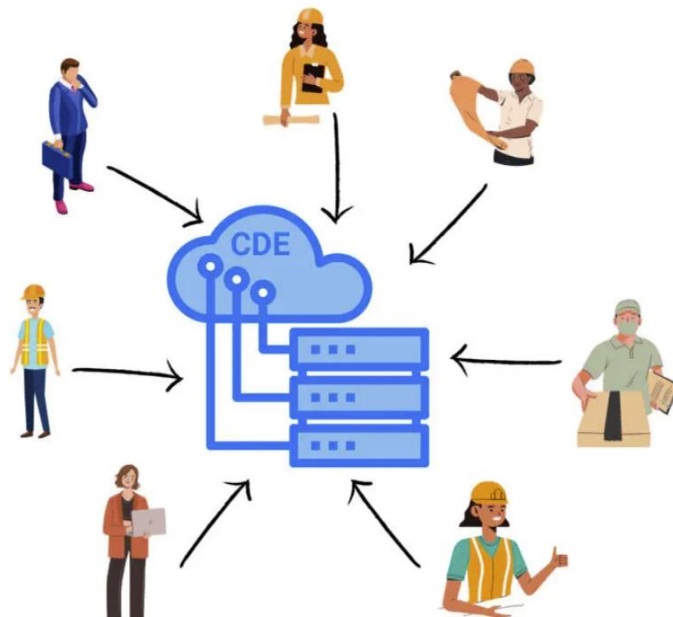
[AU Focus: Common Data Environments](#)

イメージ参照：[Common Data Environment – How BIM helps manage Digital Information](#)

# CDE 目的と効果

## 共通データ環境

- **目的：**
  - 組織内およびプロジェクトチーム間や組織間でのプロジェクトチームが仕事を共有するための**共同作業環境を提供する** ※PAS1192-2参照
- **効果：**
  - 関係者間のコラボレーションを強化
  - セキュリティを強化
  - 効率と品質を向上
  - データロス、受け渡しロス等リスクや無駄の軽減



参考記事：[ISO 19650, 共通データ環境, CDE, Autodesk Construction Cloud | Autodesk University](#)

[AU Focus: Common Data Environments](#)

イメージ参照：[Common Data Environment – How BIM helps manage Digital Information](#)

# CDE (Common Data Environment)とは？

共通データ環境



定義？

# CDE (Common Data Environment)とは？

## 共通データ環境

定義？

任意のプロジェクト/資産に関する

- ・合意された、単一の情報源 (SSOT)
- ・多職種チームへのアクセス承認
- ・管理されたプロセス
- ・全ての関連ファイル、文書・データ・収集の管理・配布が可能な環境

PAS1192-22013

### 3.1.10 common data environment (CDE)

single source of information for any given project or asset, used to collect, manage and disseminate all relevant approved files, documents and data for multi-disciplinary teams in a managed process

[adapted from PAS 1192-2:2013 to refer to an asset rather than a facility]

*NOTE The explanatory notes to PAS 1192-2, A.30 gives supporting commentary on the CDE,*

参考 : [bsi\\_pas\\_1192-3\\_2014.pdf](https://bsi-pas-1192-3-2014.pdf) ([wordpress.com](http://wordpress.com))

ISO 19650-1, p. 3.3.15

**Agreed source of information for any given project or asset, for collecting, managing and disseminating each information container through a managed process.**

参考 : <https://bimcorner.com/cde-within-iso-19650-a-process-or-a-solution/>

# [参考] 各規格によるCDE記述

- **BS1192:2007 4.1.2**・・・レポジトリ（保存場所）として定義。  
※レポジトリ：一般用語としては、さまざまなデータ、情報、知識や成果物を蓄積するデータベースやアーカイブを指す。
- **BS1192:2007 4.2**・・・CDEのアウトラインを4つのフェーズ（作業中、共有、パブリッシュ、アーカイブ）からなる**プロセス**として定義。また、レポジトリを形成するための**さまざまなツールが存在する**という記述も含む。
- **PAS1192:2013 3.13**・・・**プロセスに沿って**さまざまな種類のツールやツールセットを介して管理される**単一の情報源**であると定義。
- **PAS1192:2013 Figure 14 & 15**・・・図面やサプライヤーが存在する前の第1段階から、設計・施工のずっと後の第7段階以上まで存在する単一の実体として定義。
- **PAS1192:2014 3.1.10**・・・**任意のプロジェクトまたは資産に関する単一の情報源**であり、管理された**プロセス**において、多職種チームが承認されたすべての関連ファイル、文書、データを収集、管理、配布するために使用。
- **ISO 19650-1 3.3.15**・・・任意のプロジェクト又は資産（3.2.8）について、合意された情報源（3.3.1）であり、管理されたプロセスを通じて各情報コンテナ（3.3.12）を収集、管理、普及するためのもの

→情報ストレージ

→情報のプロセス（処理）の場

→ワークフローに沿って処理され、  
管理される情報源

→プロジェクトや資産管理を目的とし、  
必要な情報管理のプロセスの場として使用

# CDEとISOの関係？

- **ISO 19650**

ライフサイクル全体を通じて建物の情報管理をBIMで行うための国際規格

A) デリバリーフェーズの開始

- AIM（資産情報モデル）からPIM（プロジェクト情報モデル）へ関連情報を移行

B) 設計意図モデルから仮想建設モデルへの段階的な開発

C) デリバリーフェーズの終了

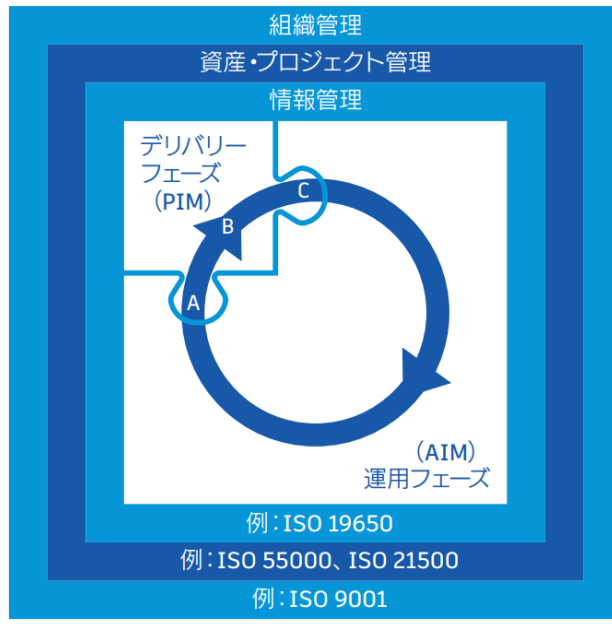
- PIMからAIMへ関連情報を戻す

- **対象者？**

オーナー様に向けた建物情報管理のためのISO規格だが、建設側にとっても必要な知識

- 各社KitemarkやBIM BSI Verificationを取得

- その他ISO要件をデジタルデリバリーで満たす



© ISO 19650-1:2018

図3 - 資産・プロジェクトの情報管理の一般的なライフサイクル  
(ISO が作成し、著作権を有する画像を基に作成した図)



# CDE (Common Data Environment)とは？

## 共通データ環境

定義？

任意のプロジェクト/資産に関する

- ・合意された、単一の情報源 (SSOT)
- ・多職種チームへのアクセス承認
- ・管理されたプロセス
- ・全ての関連ファイル、文書・データ・収集の管理・配布が可能な環境

PAS1192-22013

### 3.1.10 common data environment (CDE)

single source of information for any given project or asset, used to collect, manage and disseminate all relevant approved files, documents and data for multi-disciplinary teams in a managed process

[adapted from PAS 1192-2:2013 to refer to an asset rather than a facility]

*NOTE The explanatory notes to PAS 1192-2, A.30 gives supporting commentary on the CDE,*

参考 : [bsi\\_pas\\_1192-3\\_2014.pdf](https://bsi-pas-1192-3-2014.pdf) ([wordpress.com](http://wordpress.com))

ISO 19650-1, p. 3.3.15

**Agreed source of information for any given project or asset, for collecting, managing and disseminating each information container through a managed process.**

参考 : <https://bimcorner.com/cde-within-iso-19650-a-process-or-a-solution/>

# CDE (Common Data Environment)とは？

## 共通データ環境

定義？

特定のプロジェクト/資産に関する

- ・合意された、単一の情報源 (SSOT)
- ・多職種チームへのアクセス承認
- ・管理されたプロセス＝データの状態を知る
- ・関連ファイル、文書・データ・収集の管理・配布 が可能な環境

作業中  
(WIP)

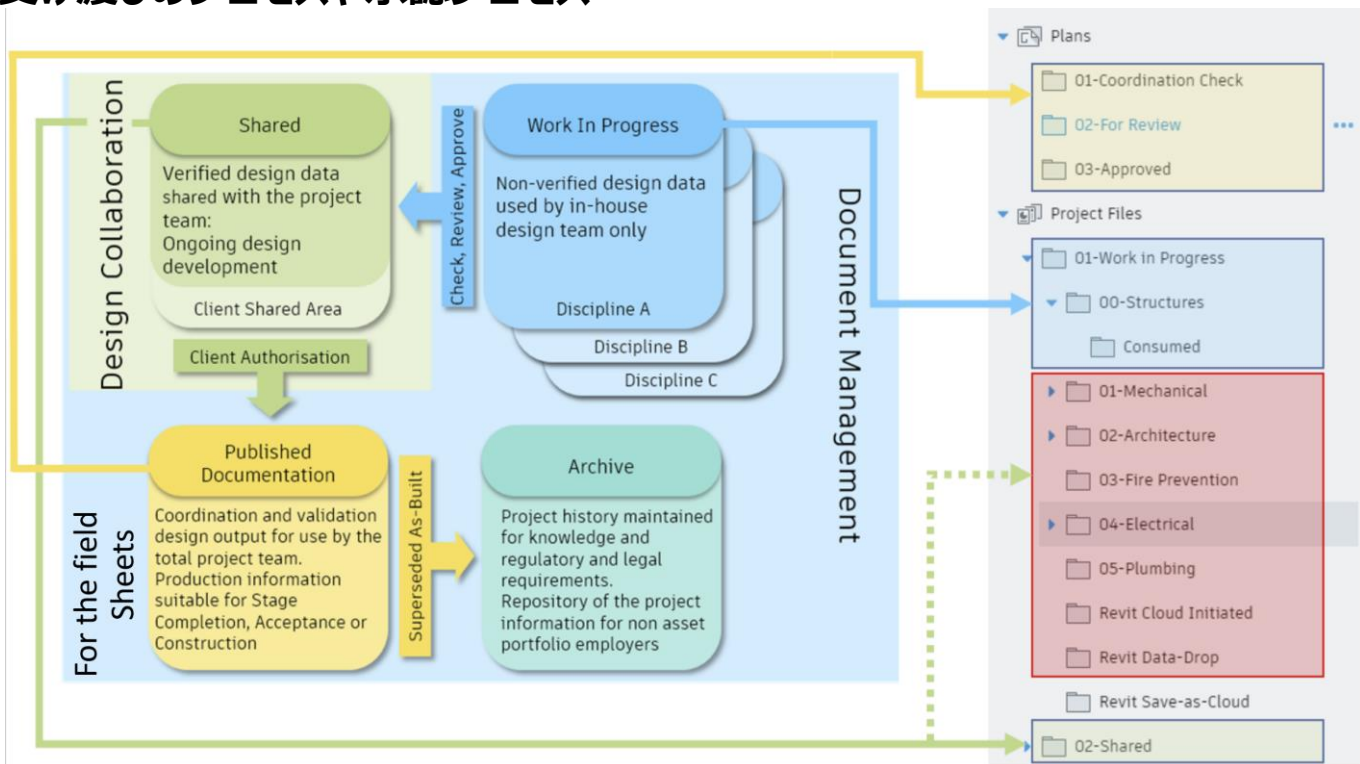
共有  
(Shared)

公開  
(Published)

保存記録  
(Archive)

# CDEとISOの関係？

- 例：データ受け渡しのプロセスや承認プロセス

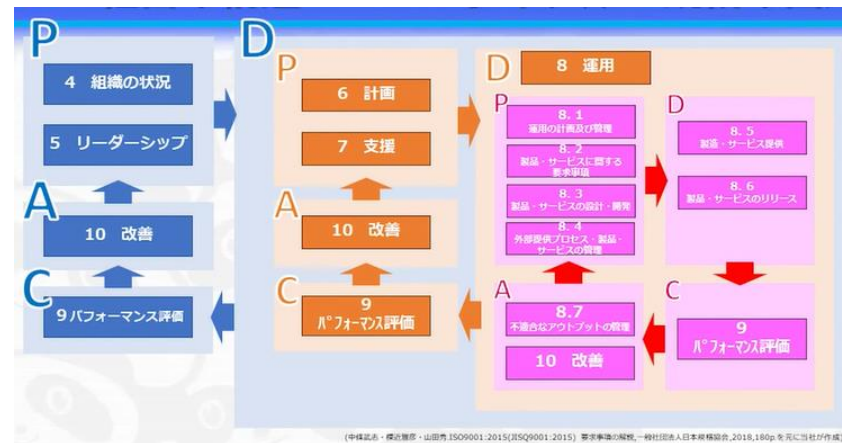


# CDEとISOの関係？

- ISO19650 CDEに必要な要素
  - ・ ISOで定義されるような品質管理のため、**PDCAサイクルを回せる環境**
- CDE活用で重要な事
  - ・ 建設フェーズで必要な**業務フローを明確化**

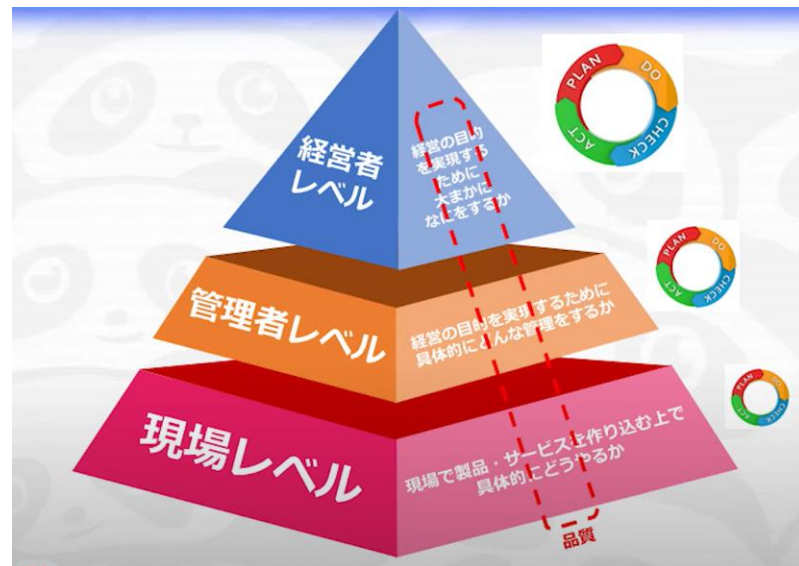
つまり、CDEとは・・・

- 以下とは異なる
  - ・ ≠ ドキュメント管理システム (EDMS)
  - ・ ≠ 一般的なクラウドストレージ



# CDEとISOの関係？

- 経営層
  - 最終的にデータが一元化される
  - **現場レベルから管理者レベルで、PDCAサイクルを回しながらも、ビジネスレベルのPDCAを回すためのデータをも取得できる仕組み**  
※ISO9001品質管理の考え方
- 従業員
  - 現場におけるコミュニケーション向上
  - 現場業務をCDE上で行うことで、経営層が状況を把握し、**業務改善を現場に落とすことが可能に**



**CDEはBIMプロジェクトだけのため？**

**BIM形式\*、従来データ形式\***で作成されたかに関わらず**”一元化されたプロジェクト情報源”**  
**CDEの整備は重要**

\*ネイティブBIMデータ、IFC  
\*CADデータ等

# CDE (Common Data Environment)とは？

## 共通データ環境

誰がどこで定義？

マーヴィン・リチャーズ 英国規格協会 (BSI)  
BS1192-2007/BIP2207

※定義は歴史とともに改訂され、  
BS1192と置き換えられた、PAS1192:2014 3.1.10、ISO 19650 3.3.15 で定義

定義？

任意のプロジェクト/資産に関する

- ・合意された、**単一の情報源** (SSOT)
- ・多職種チームへの**アクセス承認**
- ・管理された**プロセス**
- ・全ての関連ファイル、文書・データ・収集の管理・配布が可能な環境

ポイント1 : BIM、CADプロジェクトに関わらず、**全プロジェクト情報源**となる

ポイント2 : **業務フローを明確にし**、ISOで定義されるような品質管理のための**PDCAサイクルを回せる環境**である



# [参考] ISO19650導入

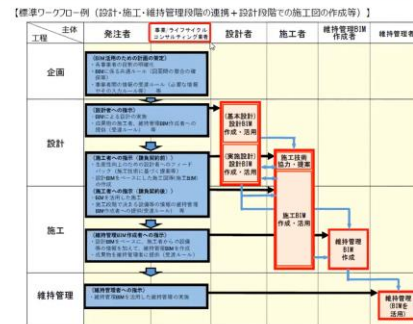
- 資料：  
ISO19650の基礎的な要件とプロジェクト管理に関する  
には

- 過去のセミナー：  
オートデスクのクラウド製品によるISO19650 対応

## 参考：ISO19650とBIM標準ワークフロー-(BIM推進会議)

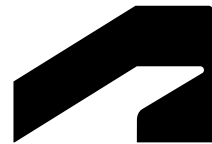
業務情報のデジタル化と、それによる受発注者間の情報管理フローの変更

受注者による発注者への手助け＝ライフサイクルコンサルティング業者



ISO 19650 の導入で  
プロジェクトの  
情報を管理するには



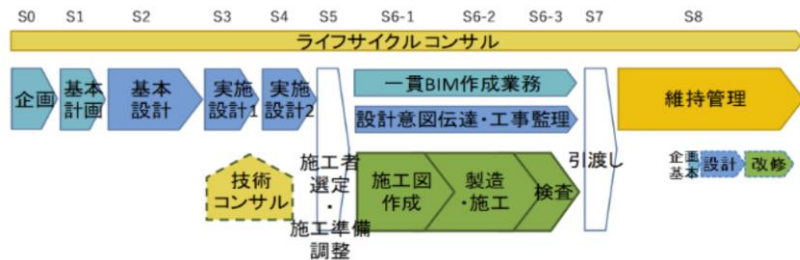


# DXにおけるCDE

なぜBIMと併せてCDE活用が必要？

# BIMとDXへの取り組みを切り離さない

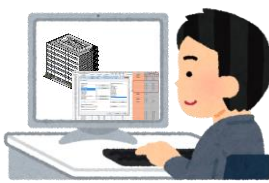
- **Building Information Modeling**  
建築物の生産プロセス及び維持・管理において、  
BIMを通じ**情報が一貫して利活用される仕組みの構築**を図り、建築分野での生産性向上を図る（国交省BIM推進会議）



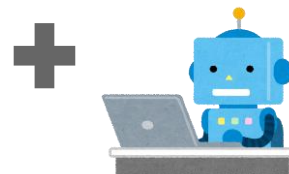
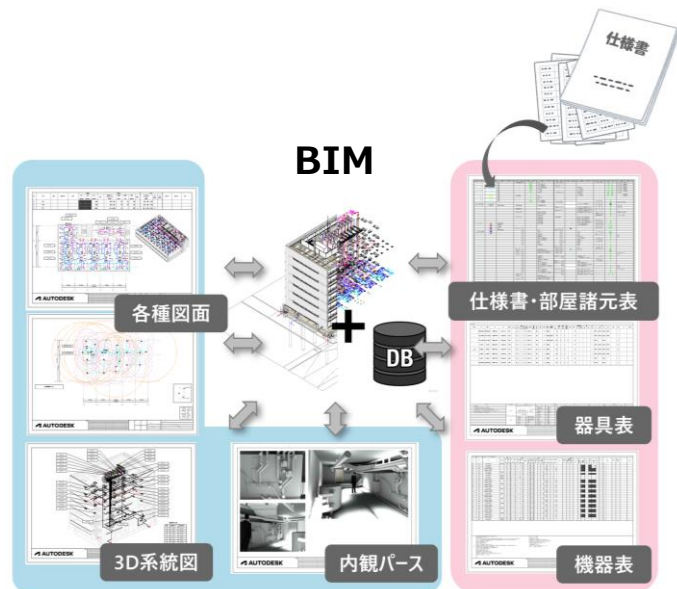
# CADからのBIMへ変革



①設計業務 (CAD)  
・レイヤ管理、図面作成が目的



②設計業務 (BIM)  
・図面とリスト、**構造化された建築データ**

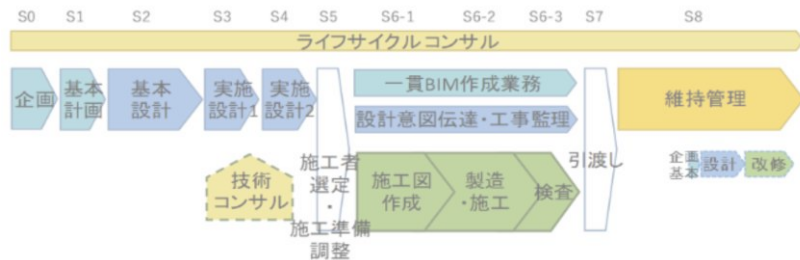


BIM

DX(クラウド、CDE)

# BIMとDXへの取り組みを切り離さない

- **Building Information Modeling**  
建築物の生産プロセス及び維持・管理において、BIMを通じ情報が一貫して利活用される仕組みの構築を図り、建築分野での生産性向上を図る（国交省BIM推進会議）

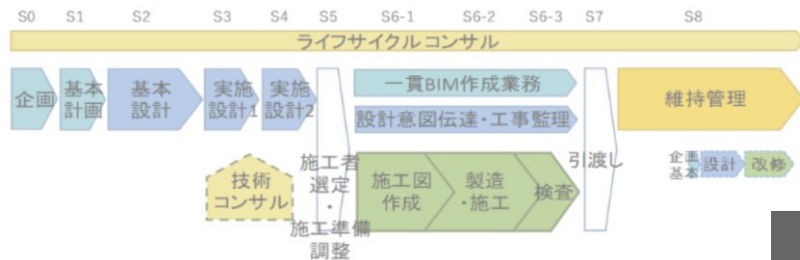


- **デジタルトランスフォーメーション**  
企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること

# BIMとDXへの取り組みを切り離さない

- **Building Information Modeling**

建築物の生産プロセス及び維持・管理において、BIMを通じ情報が一貫して利活用される仕組みの構築を図り、建築分野での生産性向上を図る（国交省BIM推進会議）



- **デジタルトランスフォーメーション**

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること



- 1、プロジェクト遂行のための環境作りが必要
- 2、プロジェクトの情報利活用のため、**BIMモデルに付加する情報以外**も活用する

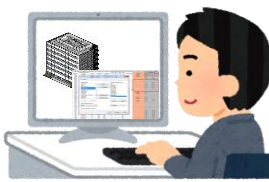
# 現場で起こる要望 クラウドストレージで満たせる？

プロジェクト遂行要望	クラウドデータストレージ	CDE (Autodesk Docs)
データを共有・配布	○	○
データを同時編集	△	○ ※Revit同時編集BIMCollaboratePro要
CAD/BIMモデル 閲覧・表示	△	○
業務フローと データプロセス仕込み	X	○
ファイル業務属性追加	?	○
業務連絡・アクション トラッキング	X	○
ログの取得 業務分析	?	○
外部データとの連携	?	○

# BIM + CDEによるデジタル変革



- ①設計業務 (CAD)  
・レイヤ管理、図面作成が目的



- ①設計業務 (BIM)  
・図面とリスト、構造化された建築データ

- ①ファイル管理 (多様)  
・バラバラなファイルストレージ  
ローカル、クラウドストレージ
- ②ビューアー(多様)  
・PDF、dwg限定的  
※GoogleDrive、Box、  
OneDrive、Dropbox



クラウド  
ストレージ?

BIM

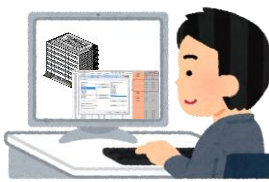
DX(クラウド、CDE)



# BIM + CDEによるデジタル変革



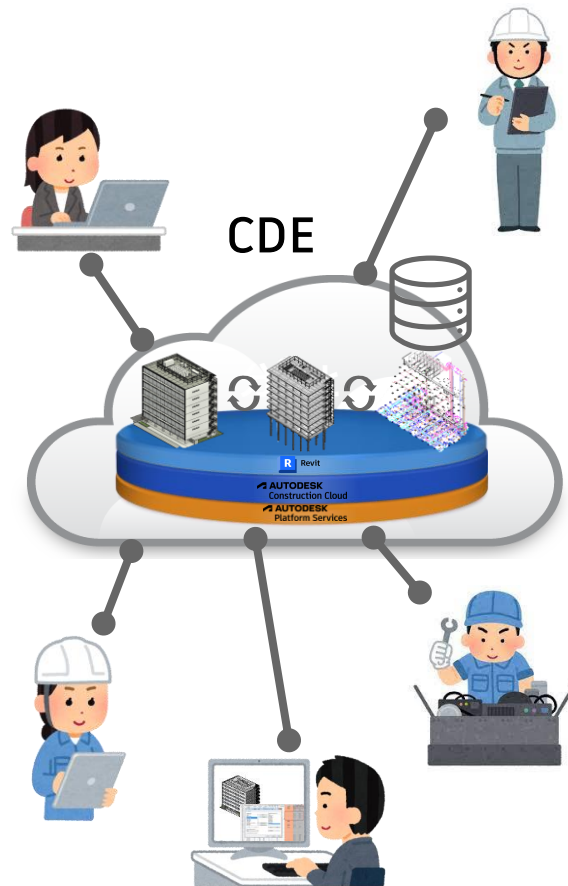
- ①設計業務 (CAD)  
・レイヤ管理、図面作成が目的



- ①設計業務 (BIM)  
・図面とリスト、構造化された建築データ

- ①ファイル管理 (多様)  
・バラバラなファイルストレージ  
ローカル、クラウドストレージ
- ②ビューアー(多様)  
・PDF、dwg限定的  
※GoogleDrive、Box、  
OneDrive、Dropbox

- ①ファイル管理 (クラウド)  
・一元化+セキュリティ  
・編集、同期、**同時編集\***
- ②ビューアー  
・CAD & BIM対応  
・モバイル (現場オフラインアクセス)

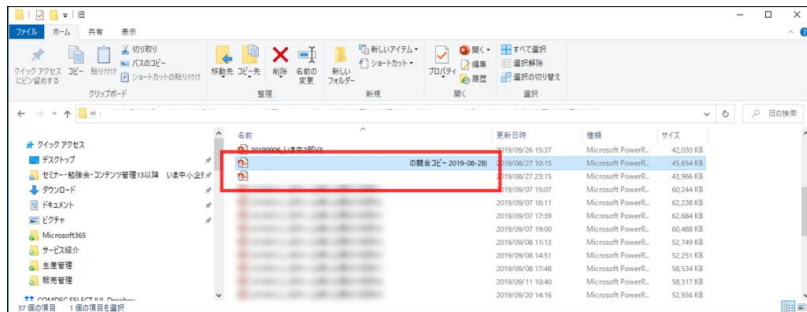


BIM

DX(クラウド、CDE)

# 編集

- データの保存編集が可能
- 保存先として指定可能
- 同時編集は不可  
※競合コピー



# 同時編集

- データの保存編集が可能
- 保存先として指定可能
- 同時編集はが可能  
OneDriveはMS製品で共同作業可能
- AutodeskDocsなら同時編集が可能
  - BIM対応 Revit
  - ※IFCには共同作業の概念がない
  - MS製品

# BIM + CDEによるデジタル変革



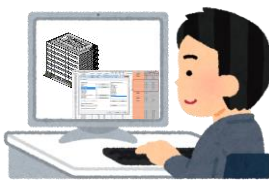
- ①設計業務 (CAD)  
・レイヤ管理、図面作成が目的

- ①ファイル管理 (多様)  
・バラバラなファイルストレージ  
・ローカル、クラウドストレージ  
※GoogleDrive、Box、  
OneDrive、Dropbox

- ②ビューアー(多様)  
・PDF、dwg限定的

- ③データプロセス管理  
・別名ファイルでのバージョン管理  
※複製、命名管理v1、2、20230823等  
・フォルダ分けによる管理

- ④業務連絡・管理  
・ファイルやメールによるデータのやり取り



- ①設計業務 (BIM)  
・図面とリスト、構造化された建築データ

- ①ファイル管理 (クラウド)  
・一元化+セキュリティ  
・編集、同期、同時編集\*
- ②ビューアー  
・CAD&BIM対応  
・モバイル (現場オフラインアクセス)



クラウド  
ストレージ?

BIM

DX(クラウド、CDE)

# BIM + CDEによるデジタル変革



- ①設計業務 (CAD)  
・レイヤ管理、図面作成が目的

- ①ファイル管理 (多様)  
・バラバラなファイルストレージ  
・ローカル、クラウドストレージ  
※GoogleDrive、Box、OneDrive、Dropbox

- ②ビューアー(多様)  
・PDF、dwg限定的
- ③データプロセス管理  
・別名ファイルでのバージョン管理  
※複製、命名管理v1、2、20230823等  
・フォルダ分けによる管理

- ④業務連絡・管理  
・ファイルやメールによるデータのやり取り

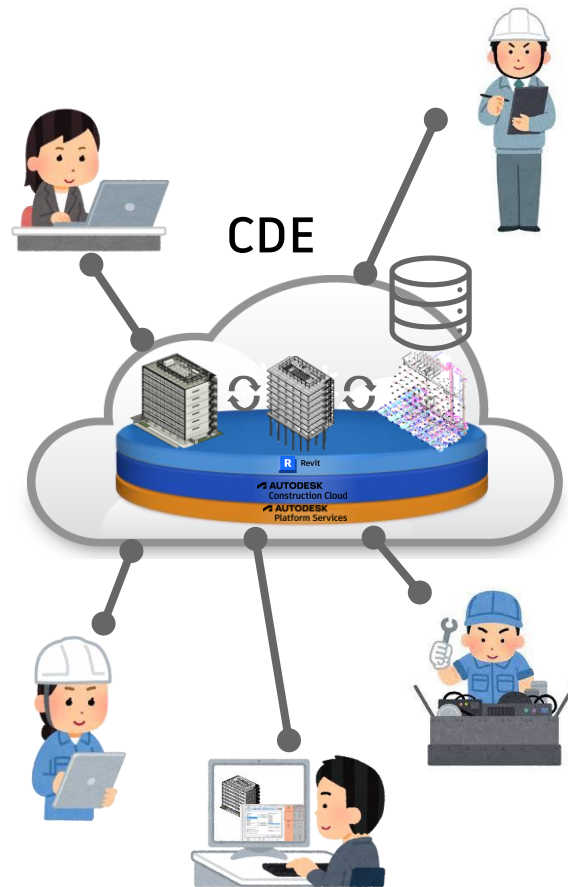


- ①設計業務 (BIM)  
・図面とリスト、構造化された建築データ

- ①ファイル管理 (クラウド)  
・一元化+セキュリティ  
・編集、同期、同時編集\*
- ②ビューアー  
・CAD&BIM対応  
・モバイル (現場オフラインアクセス)

- ③データプロセス管理  
・プロセス体系化  
作業中・共有・承認・アーカイブ化  
・自動バージョン管理

- ④業務連絡・管理  
・業務のデジタル化、ログ  
・業務連絡とファイル連携



BIM

DX(クラウド、CDE)

# BIM + CDEによるデジタル変革



- ①設計業務 (CAD)  
・レイヤ管理、図面作成が目的

- ①ファイル管理 (多様)  
・バラバラなファイルストレージ  
・ローカル、クラウドストレージ  
※GoogleDrive、Box、OneDrive、Dropbox

- ②ビューアー(多様)  
・PDF、dwg限定的
- ③データプロセス管理  
・別名ファイルでのバージョン管理  
※複製、命名管理v1、2、20230823等  
・フォルダ分けによる管理

- ④業務連絡・管理  
・ファイルやメールによるデータのやり取り

- ⑤データベース x  
属人化した業務情報



- ①設計業務 (BIM)  
・図面とリスト、構造化された建築データ

- ①ファイル管理 (クラウド)  
・一元化+セキュリティ  
・編集、同期、同時編集\*
- ②ビューアー  
・CAD&BIM対応  
・モバイル (現場オフラインアクセス)

- ③データプロセス管理  
・プロセス体系化  
作業中・共有・承認・アーカイブ化  
・自動バージョン管理

- ④業務連絡・管理  
・業務のデジタル化、ログ  
・業務連絡とファイル連携

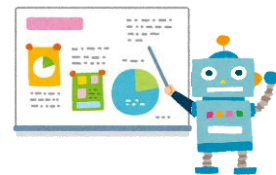
- ⑤データベース  
・組織の資産、業務関連データCDEへ

## データの活用 DX

- ・BIMによるデータ
- ・ファイル管理によるデータ
- ・自動化、AI活用

あらゆるBIMをはじめとした、  
その他業務データを  
**組織の資産**として取得し必要  
な関係者がアクセスする環境  
CDEを整備

- ↓
- ・現場利用
  - ・経営におけるビジネス意思  
決定へ利用





# BIMはDXの一環 = 業務改善

## 担当者レベルでの業務改善

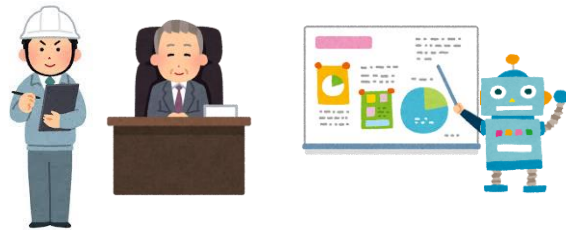
👉 データの一元化により、  
資料を探す時間無駄を減らす  
※バージョンコントロール含め

マッキンゼー社のレポート 1.8時間毎日情報を探している 8時間とすると22%

👉 徹底的に待ちを減らす、**同時作業を行う**  
フロントローディング、コーカレントエンジニアリング、  
コラボレーションワークフロー

↑  
クラウドでのデータの一元化

# BIMはDXの一環＝業務改善



## 管理者レベルでの業務改善

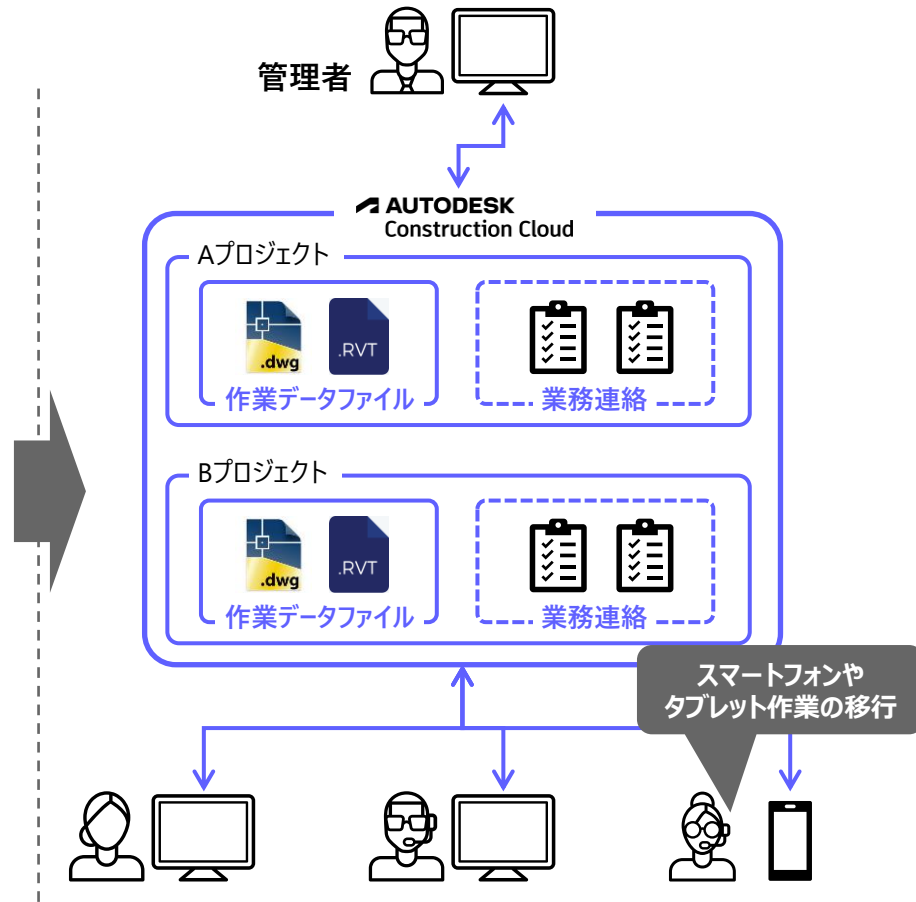
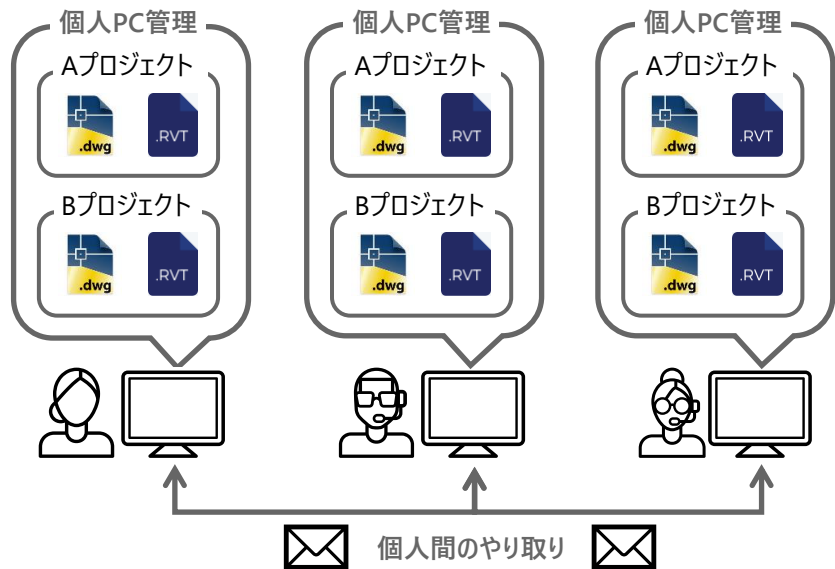
- 👉 社内での情報のブラックボックス化を防ぐ
- 👉 データ一元化によるデータの集約と分析によるビジネス改善（DX）

※BIM、CDE、基幹システムから得られるデータは、現場レベルで活用できなかつビジネスの意思決定に利用できる

**CDE活用によるデータの集約とデータ可視化**

# プラットフォームへ直接アクセスする環境

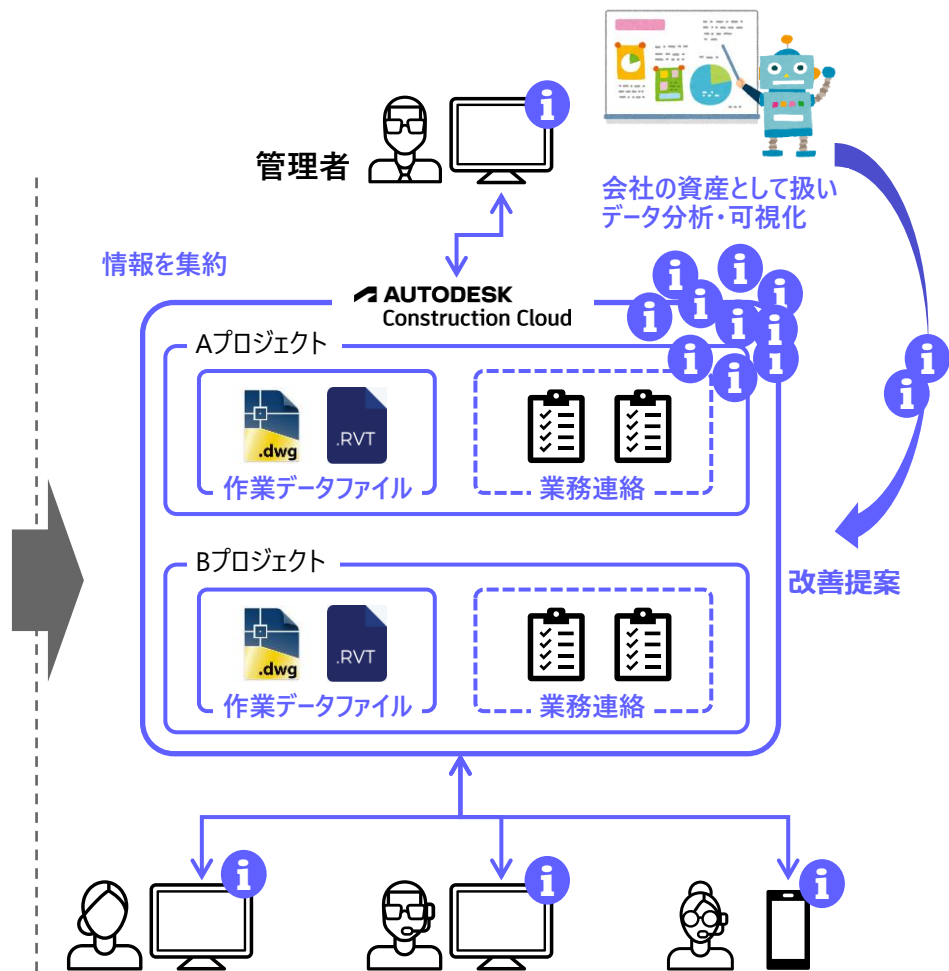
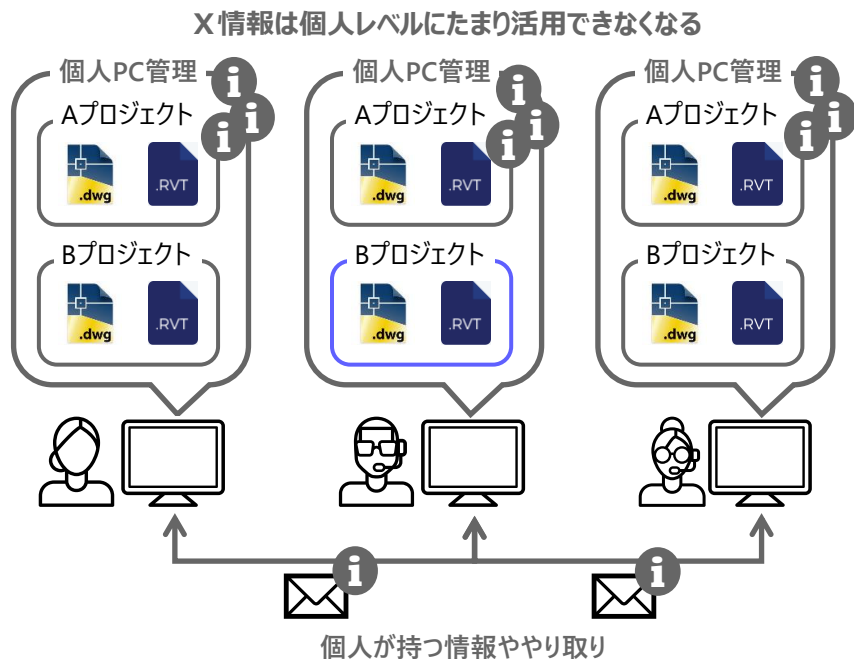
問題：個人間のやり取りには時間がかかる  
データが失われるリスクも増える





# データが集まる仕組み

問題：個人のローカルPCに情報があるとチームや会社が進捗状況などを理解できない



# 始めやすいから、今始めよう！



- ①設計業務 (CAD)  
・レイヤ管理、図面作成が目的

- ②ファイル管理 (多様)  
・バラバラなファイルストレージ  
・ローカル、クラウドストレージ  
※GoogleDrive、Box、  
OneDrive、Dropbox

- ③ビューアー(多様)  
・PDF、dwg限定的

- ③データプロセス管理  
・別名ファイルでのバージョン管理  
※複製、命名管理v1、2、20230823等  
・フォルダ分けによる管理

- ④業務連絡・管理  
・ファイルやメールによるデータのやり取り  
+データベース?  
属人化した業務情報



- ①設計業務 (BIM)  
・図面とリスト、分類：データ構造を持つ

- ②ファイル管理 (クラウド)  
・一元化+セキュリティ  
・編集、同期、同時編集\*

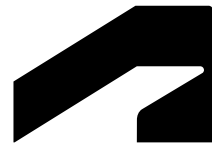
- ③ビューアー  
・CAD&BIM対応  
・モバイル (現場オフラインアクセス)

- ③データプロセス管理  
・プロセス体系化  
作業中・共有・承認・アーカイブ化

- ④業務連絡・管理  
・業務のデジタル化、ログ  
・業務連絡とファイル連携  
+データベース  
・組織の資産、業務関連データCDEへ

プロジェクトデータ  
管理場所をCDEへ！

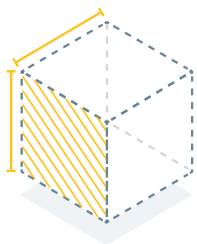
始めやすく結果  
も出やすい！



# クラウド製品概要

Autodesk Construction Cloud、BIM360との関係

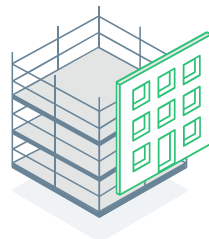
# AUTODESK Construction Cloud



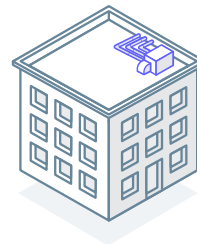
基本設計



実施設計



施工



維持管理・運営



AUTODESK  
Docs

[共通データ環境]



AUTODESK  
BIM Collaborate

[BIMモデル管理]



AUTODESK  
Takeoff

[数量拾い・集計]



AUTODESK  
Build

[施工管理]

# **AUTODESK** Construction Cloud



BIM360



Autodesk Docs



# クラウド製品 近年の発展



## BIM 360 シリーズ製品

BIM360Docs(基盤)

BIM360Design

BIM360Glue

BIM360Build

※他旧製品は割愛

# クラウド製品 近年の発展



コスト管理、スケジュールへのニーズ↑

## BIM 360 シリーズ製品

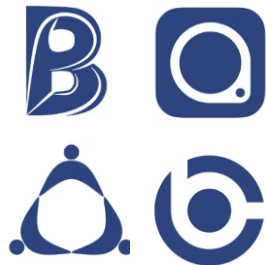
BIM360Docs(基盤)

BIM360Design

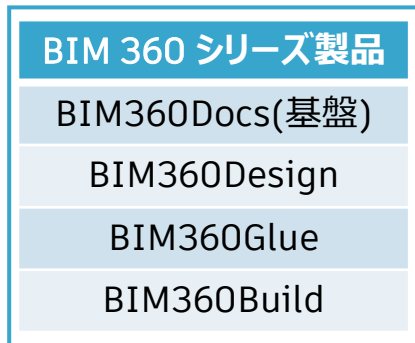
BIM360Glue

BIM360Build

# クラウド製品 近年の発展

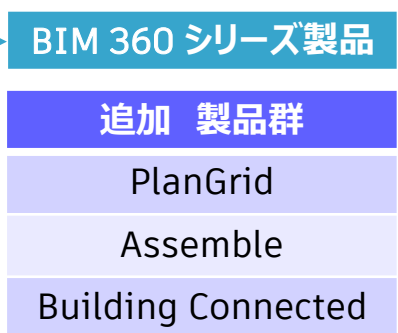
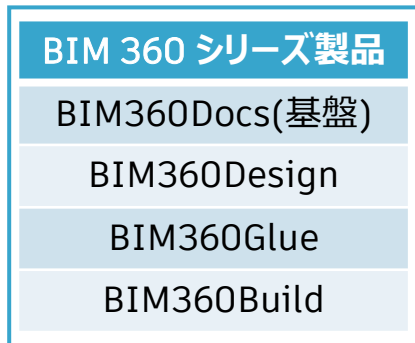
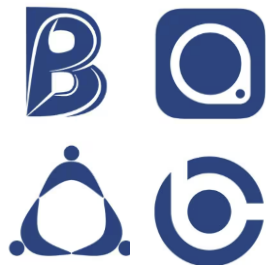


コスト管理、スケジュールへのニーズ↑





# クラウド製品 近年の発展

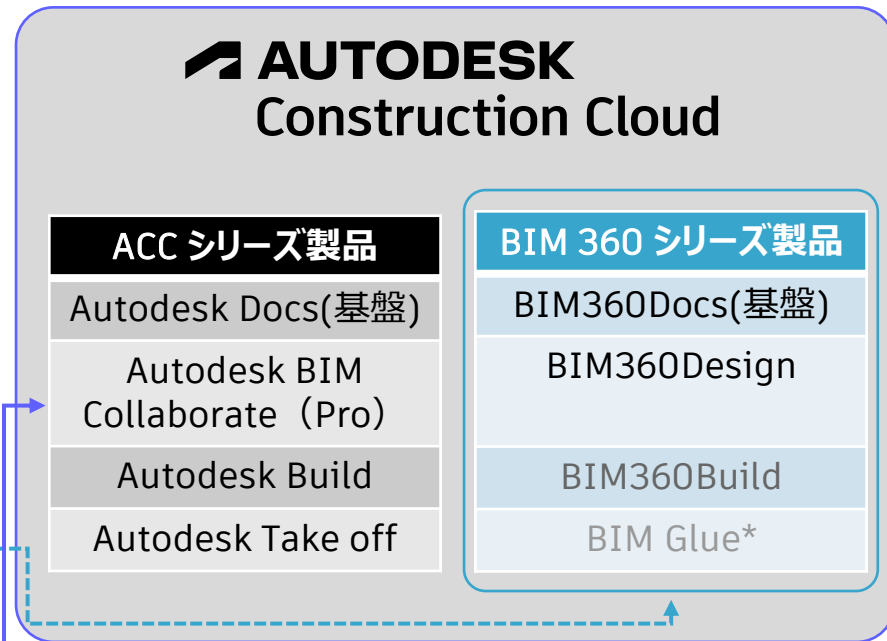
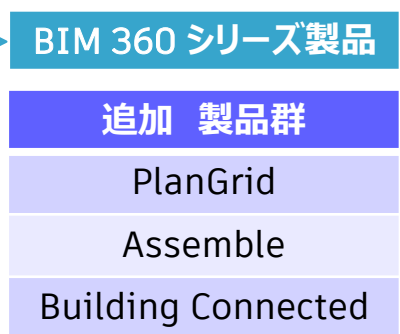
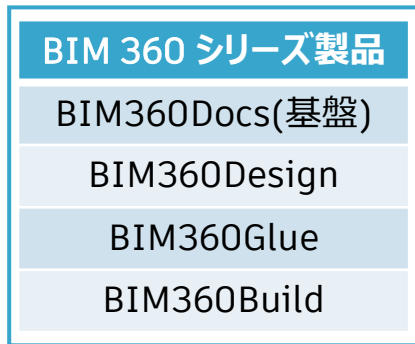
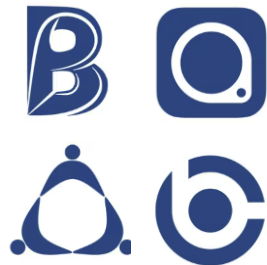


\*後のAutodesk Takeoff

# クラウド製品 近年の発展

**B** AUTODESK®  
BIM 360™

 AUTODESK  
CONSTRUCTION  
CLOUD™



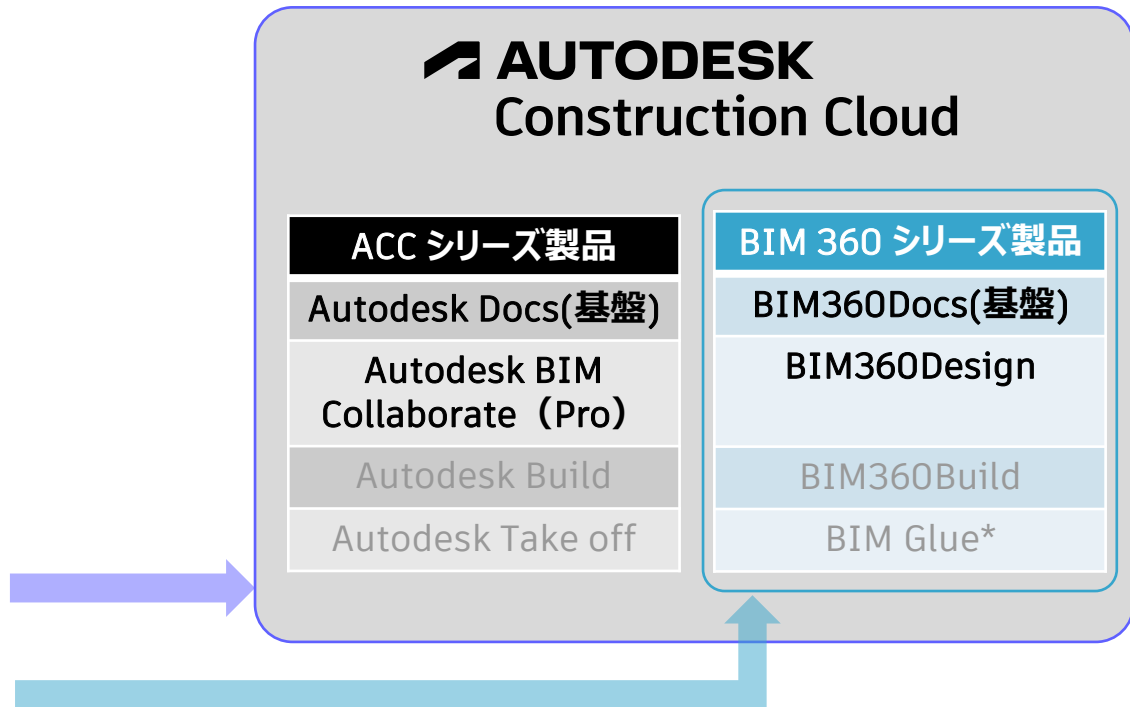
\*Glueをはじめとする旧製品は新規契約不可

# ACC内 どちらも利用可能



[acc.autodesk.com](https://acc.autodesk.com)

[docs.b360.autodesk.com](https://docs.b360.autodesk.com)



\*BIM360DesignライセンスからAutodesk Collaborate Proに自動アップグレード、但し、BIM360BuildからAutodeskBuildへの自動切り替えはなし

# プラットフォームを拡張

- <https://acc.autodesk.com/>

- [docs.b360.autodesk.com](https://docs.b360.autodesk.com)

プロジェクト フォルダ  
プロジェクト フォルダには、アカウント内のすべてのプロジェクトが一覧表示されます。

追加

4 最新プロジェクトが見つかりました | アーカイブ済みを表示

名前	プラットフォーム	メンバー	会社	ステータス	最終更新日時	アクション
What's new in Revit 2022	B	1	1	アクティブ	2023年10月10日	4
What's new in Revit 2023	B	3	1	アクティブ		非アクティブ 0
What's new in Revit2023_ACC		8	1	アクティブ		
What's new in Revit2024_ACC		7	1	アクティブ		

統一プロジェクトに移動

ようこそ, Yuki さん  
今日は何をしますか?

My Home プロジェクト プロジェクト テンプレート

+ プロジェクトを作成

検索: What

タイプ	名前	番号	クイック アクセス	アカウント	作成日時
B	What's new in Revit2024_ACC		Docs	ACC_Autodesk_3P	2023年4月4日
B	What's new in Revit2022			ACC_Autodesk_3P	2022年4月13日
B	What's new in Revit2023_ACC		Docs	ACC_Autodesk_3P	2022年4月10日
B	What's new in Revit 2023			ACC_Autodesk_3P	2022年4月7日

1 ~ 4% の表示中

# Autodesk DocsとBIM360

URLによってプラットフォームを区別

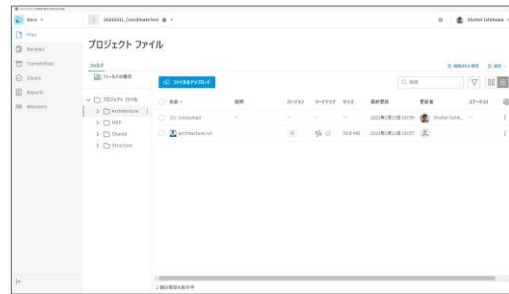


(ACCへのアクセス)  
acc.autodesk.com

XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX  
(アカウントID)

Unified Project A1

ACC Account of Company A (アカウントID)  
XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX

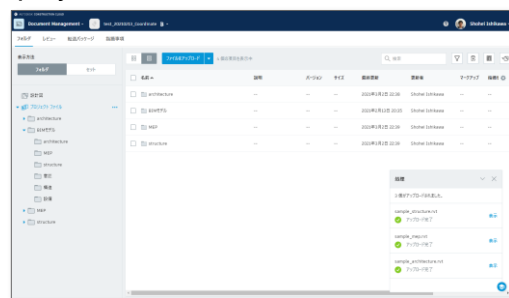


(BIM360へのアクセス)  
docs.b360.autodesk.com

XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX  
(アカウントID)

BIM360 Account of Company A

BIM360 Project B1



# [参考]ACC Docs領域でのプロジェクト作成

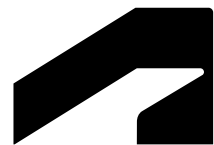
2023年9月時点

## ● ACC Docsで活用したいポイント

- ACC Docs/BIM360プロジェクトとテンプレート表示
- **プロジェクトのテンプレート化**
  - モジュール毎のテンプレート設定が可能  
※BIM360：既存プロジェクトから作成  
設定項目（制限有り）
- **新規機能が続々ACC Docsプロジェクトへ追加！**
  - **Newハイパーモデル 2D・3D重ね合わせ表示**  
（BIM360分割ビューモード）
  - **Bridge機能利用**
  - パラメータサービス(クラウドパラメータ)
  - 以降プラスのモジュールを追加した場合  
連絡機能（BIM Collaborate）

## ● その他Tips

- メンバー一括登録する場合  
BIM360のAccount Adminからやると便利  
スプレッドシートからアカウントへの一括登録
- プラスのモジュール  
施工向けAutodesk Build  
既存BIM360 Buildは機能が異なる  
新規契約は、Autodesk Build



# Autodesk Docs使いこなし 5ステップと機能紹介



フォルダ管理



キーワード検索



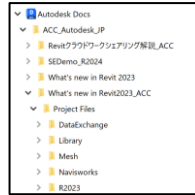
アクセス権限



ファイル命名規則  
属性管理



Desktop Connector



共有/ダウンロード



共有/Bridge\*



ファイル転送



2D・3D表示



断面解析/ボックス



計測



プロパティ



モデルブラウザ



モバイルアクセス



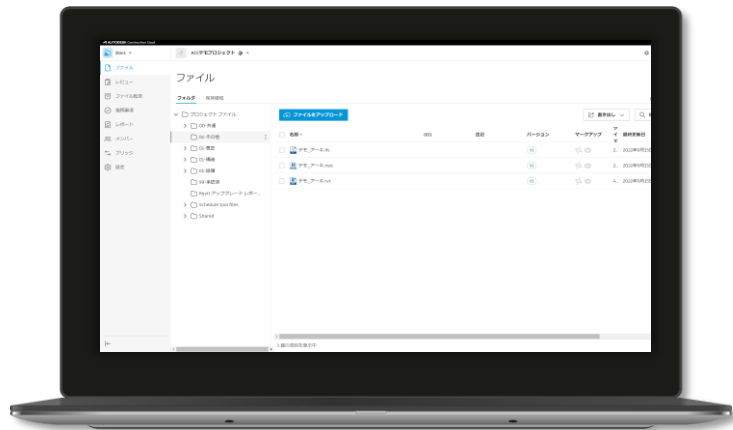
バージョン管理



図面比較



# Autodesk Docs機能



マークアップ



指摘事項



データ参照



レビュー



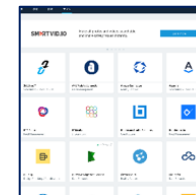
ダッシュボード



データコネクタ



インテグレーション



9ヶ国語





# CDE活用ステップ

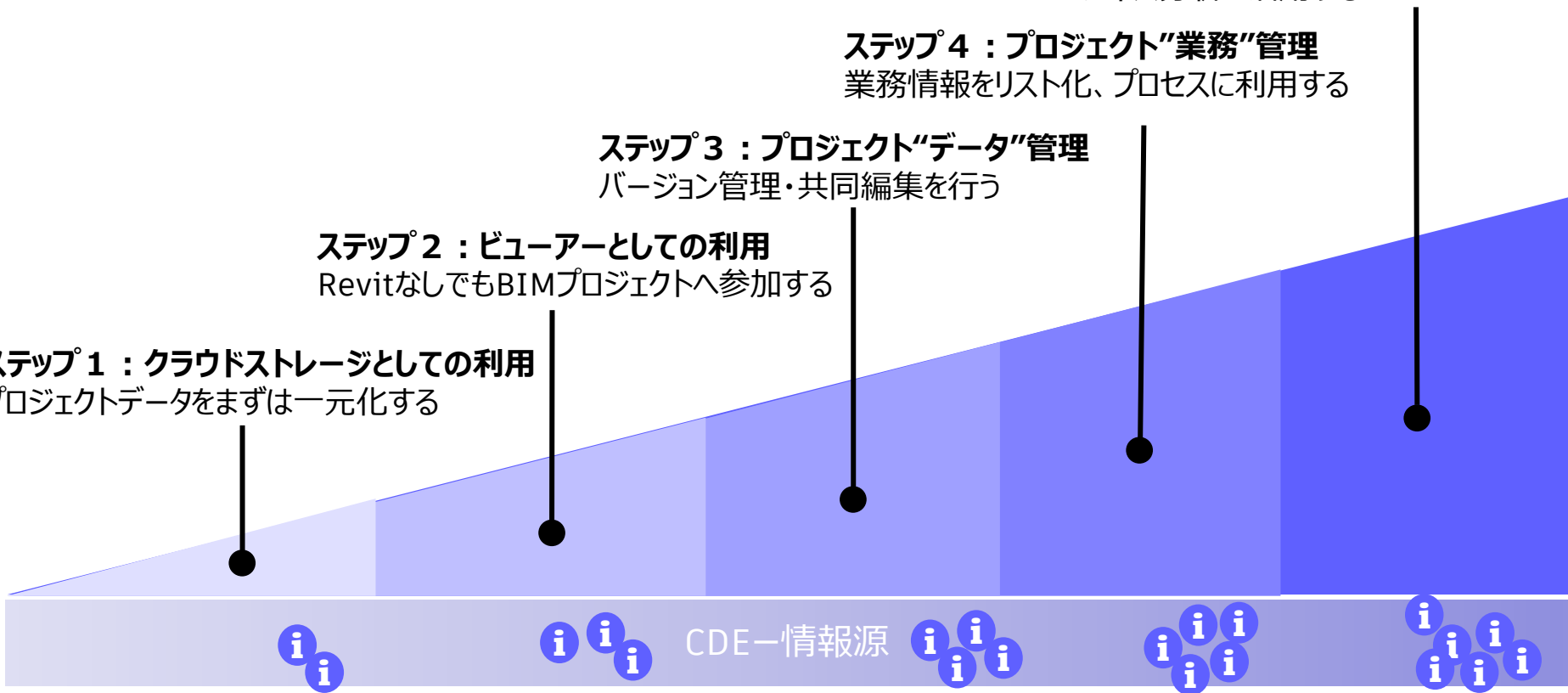
ステップ5：データ可視化と分析に利用  
現場～管理者レベルまでのデータを取得、  
ビジネス分析に活用する

ステップ4：プロジェクト“業務”管理  
業務情報をリスト化、プロセスに利用する

ステップ3：プロジェクト“データ”管理  
バージョン管理・共同編集を行う

ステップ2：ビューアーとしての利用  
RevitなしでもBIMプロジェクトへ参加する

ステップ1：クラウドストレージとしての利用  
プロジェクトデータをまずは一元化する





# ステップ 1 クラウドストレージとしての利用

まずは、ストレージの置き換えとして

## フォルダ管理



## キーワード検索



## アクセス権限



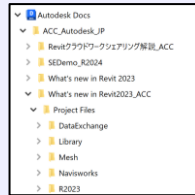
ISO19650

## ファイル命名規則 属性管理



ISO19650

## Desktop Explorer



## 共有/ダウンロード



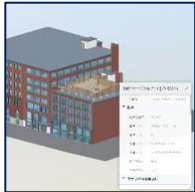
## 共有/Bridge\*



## ファイル転送



## 2D・3D表示



## 断面解析/ボックス



## 計測



## プロパティ



## モデルブラウザ



## モバイルアクセス



## バージョン管理

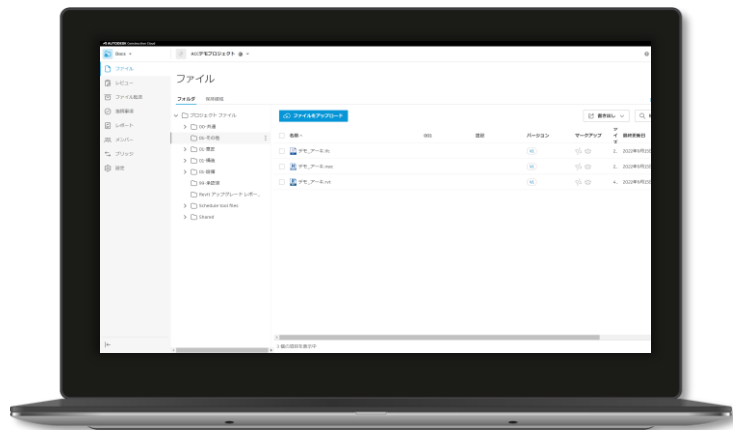


ISO12006-2

## バージョン比較



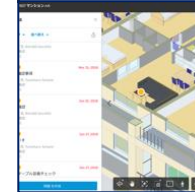
# Autodesk Docs機能



## マークアップ



## 指摘事項



## データ参照



## レビュー

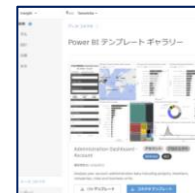


ISO19650

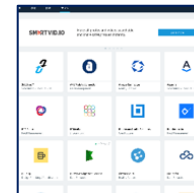
## ダッシュボード



## データコネクタ



## インテグレーション



## 9ヶ国語

- Danish
- Dutch
- French
- German
- Japanese
- Portuguese (Brazil)
- Simplified Chinese
- Spanish
- Swedish



# [ファイル] Docs対応ファイルタイプ

## データ容量無制限

- ファイル最大サイズ 5 TB  
※24時間以内にアップロードできない場合はアップロード失敗となる  
制限事項は[こちら](#)

### 様々なファイルタイプに対応

.3dm	Rhino	.g	BRL-CAD	.png	Multiple
.3ds	Autodesk 3ds Max	.gbxml	Green Building XML Files	.ppt	PowerPoint
.a	Unix Static Object Code Library Format	.glb	Graphics Language Transmission Format	.prt	Pro/ENGINEER (Creo)
.asm	Autodesk ShapeManager	.gltf	Graphics Language Transmission Format	.psm	Solid Edge
.axm	Autodesk FormIt	.iam*	Autodesk Inventor Assembly	.psmodel	Autodesk PowerShape
.bmp	Multiple	.idw (all releases)	IntelliDraw	.rcp**	Autodesk ReCap
.brd	Autodesk EAGLE	.ifc	Multiple	.rvt (current+pre 4 releases)	Autodesk Revit
.bpm	Bizagi Process Modeler	.ige	Multiple	.sab	ACIS Files
.cam360	Autodesk Fusion 360 Toolpath Archive Files	.iges	Multiple	.sat	ACIS Files
.catpart	CATIA V5	.igs	Multiple	.skp	Google SketchUp
.catproduct	CATIA V5	.ipt* (all releases)	Autodesk Inventor Part	.sldasm	SolidWorks Assembly
.cgr	CATIA V5	.iwm	Autodesk Infraworks	.sldprt	SolidWorks Part
.dae	COLLADA	.jpg	Multiple	.smb	Vinod
.dxd	Autodesk PowerShape and FeatureCAM	.jpeg	Multiple	.step	Multiple
.ddz	Autodesk PowerInspect	.jst	Siemens PLM Software	.stl	Multiple
.dgn	Autodesk PowerShape	.max	Maximizer	.stp	Multiple
.dgn	MicroStation	.model	CATIA V4	.stpz	CATIA
.div3	CATIA V4	.mp4	Multiple	.tif	Multiple
.dmt	Autodesk PowerShape	.neu	Pro/ENGINEER (Creo)	.tiff	Multiple
.doc	Microsoft Word	.nwc	Autodesk Navisworks	.vpb	Autodesk VRED 3D
.dwf	Multiple	.nwd	Autodesk Navisworks	.vue	Autodesk 3ds Max
.dwx	Multiple	.obj	Wavefront (ASCII)	.wire	Autodesk Alias
.dwg	Autodesk AutoCAD	.osb	Merkaartor	.x_b	Parasolid
.dwt	Autodesk AutoCAD	.par	Solid Edge	.x_t	Parasolid
.dxf	Autodesk AutoCAD	.pdf	Adobe Acrobat	.xas	Pro/ENGINEER (Creo)
.emodel	Autodesk PowerShape	.pmlprj	Autodesk PowerMILL	.xpr	Pro/ENGINEER (Creo)
.exp	CATIA V4	.pmlprjz	Autodesk PowerMILL Archived Project	.zip	Multiple
.f3d	Autodesk Fusion 360				
.fbx	Autodesk MotionBuilder				

# [ファイル] Docs対応ファイルタイプ

- 様々なファイルに対応  
保存、表示、編集ブラウザ上で可能

- **Autodesk製品**

Revit、AutoCAD、Navisworks、3dsMax、FormIt等

- **他社製品とのコラボレーションを可能に  
3Dデータ**

Rhino、CATIA、IFC等

- **その他、イメージデータ等**

サポートされるファイルの詳細は[こちら](#)

※アップロード&表示&編集

それぞれ異なるため  
詳細を確認ください

- **Microsoft® Office ファイル**

Excel、word、PowerPointの編集、  
Visioのファイル共有が可能。詳細は[こちら](#)

## 様々なファイルタイプに対応

.3dm	Rhino
.3ds	Autodesk 3ds Max
.a	Unix Static Object Code Library Format
.asm	Autodesk ShapeManager
.axm	Autodesk FormIt
.bmp	Multiple
.brd	Autodesk EAGLE
.bpm	Bizagi Process Modeler
.cam360	Autodesk Fusion 360 Toolpath Archive Files
.catpart	CATIA V5
.catproduct	CATIA V5
.cgr	CATIA V5
.dae	COLLADA
.dxd	Autodesk PowerShape and FeatureCAM
.ddz	Autodesk PowerInspect
.dgn	Autodesk PowerShape
.dgn	MicroStation
.div3	CATIA V4
.dmt	Autodesk PowerShape
.doc	Microsoft Word
.dwf	Multiple
.dwx	Multiple
.dwg	Autodesk AutoCAD
.dwt	Autodesk AutoCAD
.dxf	Autodesk AutoCAD
.emodel	Autodesk PowerShape
.exp	CATIA V4
.f3d	Autodesk Fusion 360
.fbx	Autodesk MotionBuilder

.g	BRL-CAD
.gbxml	Green Building XML Files
.glb	Graphics Language Transmission Format
.gltf	Graphics Language Transmission Format
.iam*	Autodesk Inventor Assembly
.idw (all releases)	IntelliDraw
.ifc	Multiple
.ige	Multiple
.iges	Multiple
.igs	Multiple
.ipt* (all releases)	Autodesk Inventor Part
.iwm	Autodesk Infracworks
.jpg	Multiple
.jpeg	Multiple
.jt	Siemens PLM Software
.max	Maximizer
.model	CATIA V4
.mp4	Multiple
.neu	Pro/ENGINEER (Creo)
.nwc	Autodesk Navisworks
.nwd	Autodesk Navisworks
.obj	Wavefront (ASCII)
.osb	Merkaartor
.par	Solid Edge
.pdf	Adobe Acrobat
.pmlprj	Autodesk PowerMILL
.pmlprjz	Autodesk PowerMILL Archived Project

.png	Multiple
.ppt	PowerPoint
.prt	Pro/ENGINEER (Creo)
.psm	Solid Edge
.psmodel	Autodesk PowerShape
.rcp**	Autodesk ReCap
.rvt (current+pre 4 releases)	Autodesk Revit
.sab	ACIS Files
.sat	ACIS Files
.skp	Google SketchUp
.sldasm	SolidWorks Assembly
.sldprt	SolidWorks Part
.smb	Vinod
.step	Multiple
.stl	Multiple
.stp	Multiple
.stpz	CATIA
.tif	Multiple
.tiff	Multiple
.vbp	Autodesk VRED 3D
.vue	Autodesk 3ds Max
.wire	Autodesk Alias
.x_b	Parasolid
.x_t	Parasolid
.xas	Pro/ENGINEER (Creo)
.xpr	Pro/ENGINEER (Creo)
.zip	Multiple

# [ファイル] Docs対応ファイルタイプ

## ● データ容量無制限

- ファイル最大サイズ 5 TB  
※24時間でアップロードできない場合は失敗となる  
制限事項は[こちら](#)

## ● 様々なファイルに対応 保存、表示、編集ブラウザ上で可能

- **Autodesk製品**  
Revit、AutoCAD、Navisworks、3dsMax、FormIt等
- **他社製品とのコラボレーションを可能にする  
3Dデータ**  
Rhino、CATIA、IFC等
- その他、イメージデータ等  
サポートされるファイルの詳細は[こちら](#)  
※アップロード&表示&編集それぞれ異なるため  
詳細を確認ください
- **Microsoft® Office ファイル**  
Excel、word、PowerPointの編集、Visioのファイル  
共有が可能。詳細は[こちら](#)

## 様々なファイルタイプに対応

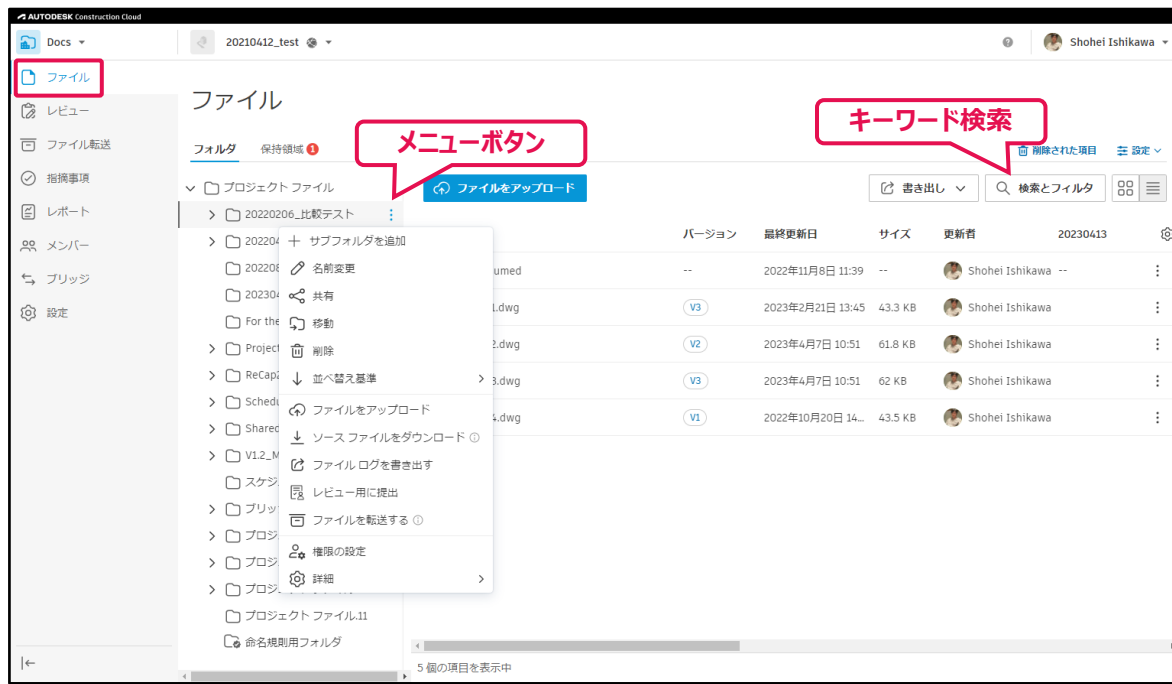
.3dm	Rhino
.3ds	Autodesk 3ds Max
.a	Unix Static Object Code Library Format
.asm	Autodesk ShapeManager
.axm	Autodesk FormIt
.bmp	Multiple
.brd	Autodesk EAGLE
.bpm	Bizagi Process Modeler
.cam360	Autodesk Fusion 360 Toolpath Archive Files
.catpart	CATIA V5
.catproduct	CATIA V5
.cgr	CATIA V5
.dae	COLLADA
.dxd	Autodesk PowerShape and FeatureCAM
.ddz	Autodesk PowerInspect
.dgd	Autodesk PowerShape
.dgn	MicroStation
.div3	CATIA V4
.dmt	Autodesk PowerShape
.doc	Microsoft Word
.dwf	Multiple
.dwx	Multiple
.dwg	Autodesk AutoCAD
.dwt	Autodesk AutoCAD
.dxf	Autodesk AutoCAD
.emodel	Autodesk PowerShape
.exp	CATIA V4
.f3d	Autodesk Fusion 360
.fbx	Autodesk MotionBuilder

.g	BRL-CAD
.gbxml	Green Building XML Files
.glb	Graphics Language Transmission Format
.gltf	Graphics Language Transmission Format
.iam*	Autodesk Inventor Assembly
.idw (all releases)	IntelliDraw
.ifc	Multiple
.ige	Multiple
.iges	Multiple
.igs	Multiple
.ipt* (all releases)	Autodesk Inventor Part
.iwm	Autodesk Infracworks
.jpg	Multiple
.jpeg	Multiple
.jt	Siemens PLM Software
.max	Maximizer
.model	CATIA V4
.mp4	Multiple
.neu	Pro/ENGINEER (Creo)
.nwc	Autodesk Navisworks
.nwd	Autodesk Navisworks
.obj	Wavefront (ASCII)
.osb	Merkaartor
.par	Solid Edge
.pdf	Adobe Acrobat
.pmlprj	Autodesk PowerMILL
.pmlprjz	Autodesk PowerMILL Archived Project

.png	Multiple
.ppt	PowerPoint
.prt	Pro/ENGINEER (Creo)
.psm	Solid Edge
.psmodel	Autodesk PowerShape
.rcp**	Autodesk ReCap
.rvt (current+pre 4 releases)	Autodesk Revit
.sab	ACIS Files
.sat	ACIS Files
.skp	Google SketchUp
.sldasm	SolidWorks Assembly
.sldprt	SolidWorks Part
.smb	Vinod
.step	Multiple
.stl	Multiple
.stp	Multiple
.stpz	CATIA
.tif	Multiple
.tiff	Multiple
.vbp	Autodesk VRED 3D
.vue	Autodesk 3ds Max
.wire	Autodesk Alias
.x_b	Parasolid
.x_t	Parasolid
.xas	Pro/ENGINEER (Creo)
.xpr	Pro/ENGINEER (Creo)
.zip	Multiple

# [ファイル] データファイルを管理するCDE機能

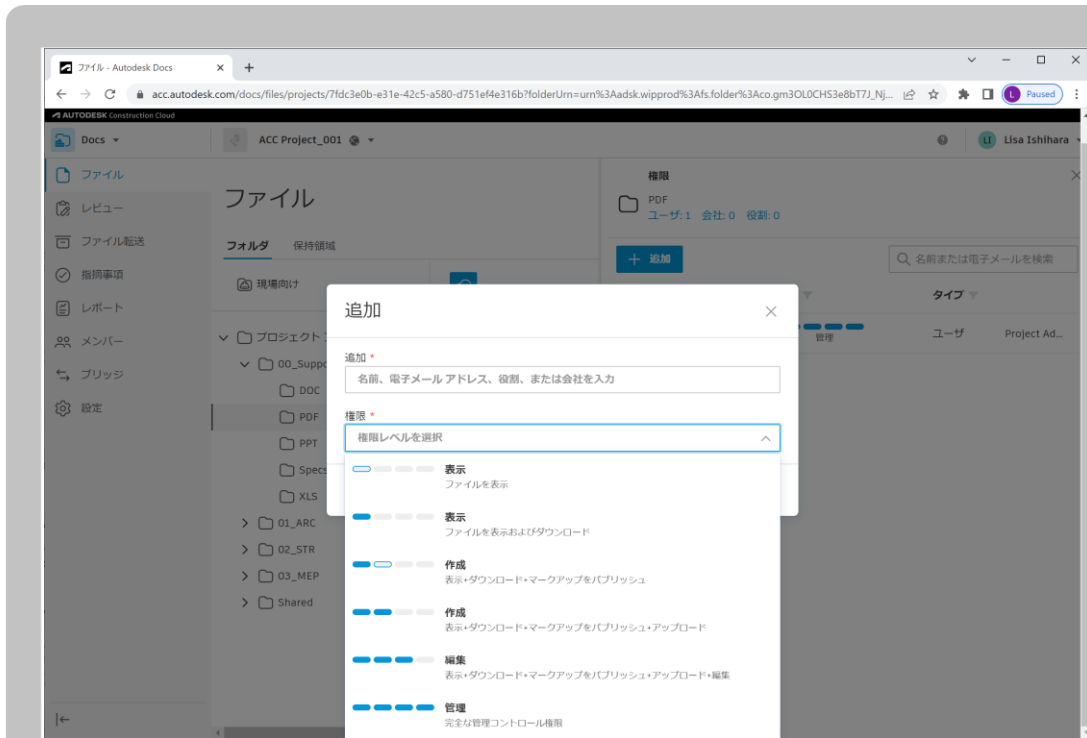
- Docsモジュール機能[ファイル]
- 通常のファイル管理と同様に、  
任意のフォルダを作成可能
- プロジェクトテンプレート\*を利用すると、  
プロジェクト作成時に決まった  
フォルダ構成やファイルを自動作成
- さまざまな機能
  - 権限管理
  - 共有
  - ファイルログの書き出し
  - レビュー用に提出
  - ファイルを転送する
- 多言語対応(13か国語)



\*管理者編は別途資料

# [ファイル] フォルダアクセス権限

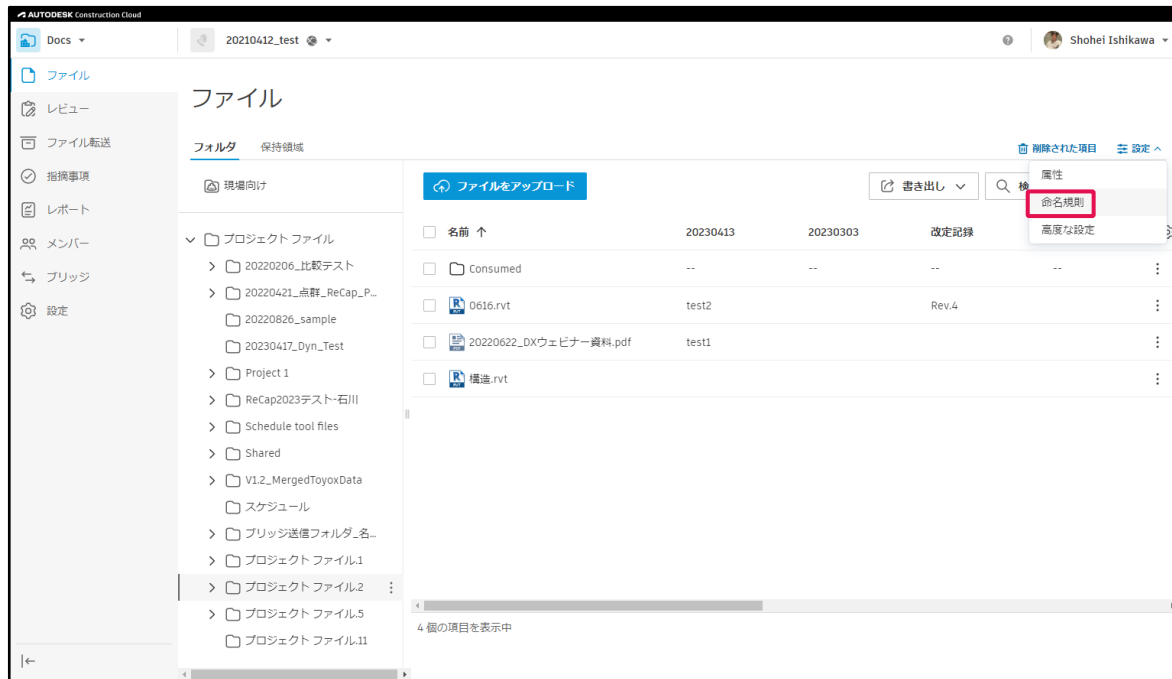
- フォルダに対するアクセス権限をコントロールすることができます。
- フォルダ権限：
  - 表示のみ
  - 表示 + ダウンロード
  - 表示 + ダウンロード + マークアップをパブリッシュ
  - 表示 + ダウンロード + マークアップをパブリッシュ + アップロード
  - 表示 + ダウンロード + マークアップをパブリッシュ + アップロード + 編集
  - 完全な管理コントロール権限





# [ファイル] 命名規則

- フォルダにアップロードするファイルの名前にルールを適用します
- ファイル管理の際に名前を利用する場合に活用できます
  - ISO19650など
- アップロード時にファイル名を判定します
- ルール違反の際は、保持領域に保存し、名前が修正されるのを待ちます



# [ファイル] 命名規則

- フォルダにアップロードするファイルの名前にルールを適用します
- ファイル管理の際に名前を利用する場合に活用できます
  - ISO19650など
- アップロード時にファイル名を判定します
- ルール違反の際は、保持領域に保存し、名前が修正されるのを待ちます



The screenshot displays the '命名規則' (Naming Rules) configuration page in the Autodesk Construction Cloud interface. The page title is 'ファイル / 設定' (Files / Settings). The current configuration is 'Default - ISO 19650'. A red callout box with the text 'ファイル名にルールを作ります' (Create rules for file names) points to the configuration area. The '命名規則' (Naming Rules) section shows a sequence of tags: 'プロジェクト' (Project), '開始者' (Initiator), 'ボリューム/システム' (Volume/System), 'レベル/場所' (Level/Location), 'タイプ' (Type), '役割' (Role), and '番号' (Number). The '関連属性' (Related Properties) section includes 'ステータス' (Status), '改訂' (Revision), and '分類' (Classification). The 'フォルダに強制' (Enforce on Folder) section is set to 'フォルダを選択' (Select Folder). A note at the bottom states: '不適合ドキュメント名が存在する場合に、ドキュメントのアップロード方法をコントロールします。' (When incompatible document names exist, it controls the document upload method.) and a checkbox is checked for '非適合ファイルの保持領域を有効にする' (Enable retention area for incompatible files).

# [ファイル] 命名規則

- フォルダにアップロードするファイルの名前にルールを適用します
- ファイル管理の際に名前を利用する場合に活用できます
  - ISO19650など
- アップロード時にファイル名を判定します
- ルール違反の際は、保持領域に保存し、名前が修正されるのを待ちます



# 【ファイル】 命名規則

- フォルダにアップロードするファイルの名前にルールを適用します
- ファイル管理の際に名前を利用する場合に活用できます
  - ISO19650など
- アップロード時にファイル名を判定します
- ルール違反の際は、保持領域に保存し、名前が修正されるのを待ちます



# [ファイル] 既定 & カスタム属性

- ファイル内ではなく、ファイル項目にオリジナルの属性を追加できます
- 属性には、自由テキスト、ドロップダウンリスト、日付といった情報を追加できます
- Excelに書き出せるので、BIと連携することでフォルダの中身を見なくても状況を把握できます\*

\*別スライド解説

The screenshot displays the Autodesk Construction Cloud interface. On the left, a sidebar contains navigation options like 'ファイル', 'レビュー', and '設定'. The main area shows a file list under the heading 'ファイル'. A red callout box with the text '自由に項目を追加できます' points to a '属性' (Attribute) menu that is open over the file list. The menu includes options like '命名規則' and '高度な設定'. The file list itself has columns for '名前', '作業目標日', '改定記録', and '部長確認'. A table of files is visible below the menu.

名前	作業目標日	改定記録	部長確認
Consumed	--	--	--
プロジェクト ファイル1.1	--	--	--
sample_architecture.rvt	2023年4月11日	Rev.3	否認
施工体制台帳-SmartFieldTest-1pdf.pdf	2023年4月19日	Rev.3	承認
私たちはチーム.jpg	2023年4月26日	Rev.2	XXX

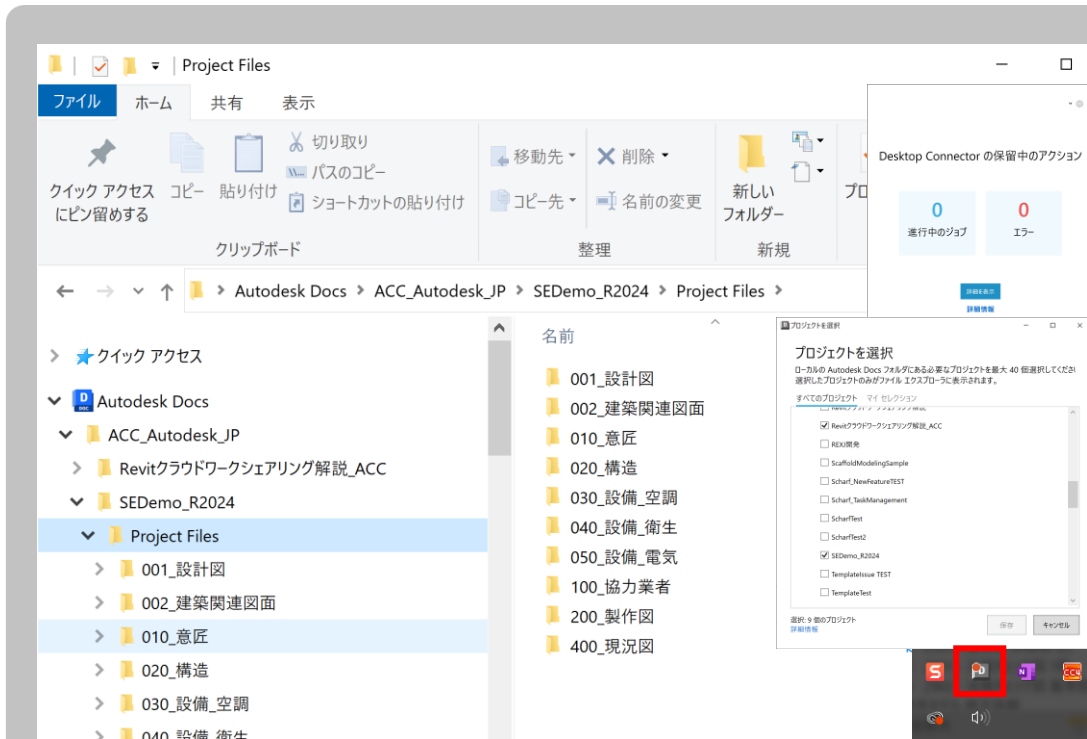
# [ファイル] キーワード検索

- フォルダの中身をキーワードで検索
  - タイトルだけでなく、PDFなどは内容が一致する場合も検索結果に表示
  - さまざまなフィルタを設定し、検索範囲を絞り込み
  - 検索条件を保存



# [無料App] Desktop Connector

- Windowsのファイルエクスプローラーで Docsにアクセスが可能
- Docsをブラウザを開かずにファイルのアップロードや閲覧が可能
- PCの容量を抑えるために、DesktopConnectorでアクセスするプロジェクトのみを選択
- ファイル命名規則認識 [詳細はこちら](#)
- Desktop Connectorのインストール方法 [こちら](#)



# ブリッジ

## ブリッジについて

ACC Docs  
限定

- 現在のプロジェクトと他のプロジェクト間で共有したフォルダやファイルを管理
- 概要
  - 他アカウントを含む他プロジェクトとの間で共有された「シート」や「ファイル」をプロジェクトで管理
  - 共有ファイル パッケージ化、一覧表示
  - 共有された「フォルダ」や「シート」を自動更新・表示
  - 自分がメンバーとなっている他のプロジェクトからのシートを「読み込み」が可能
  - Revitからブリッジプロジェクトの[リンクが可能 \(Revit2023.1.2以降のみ\)](#)  
※但し、Revitのバージョンをまたいでのブリッジリンクは不可

詳細 クリック



# ブリッジ

## ブリッジについて

ACC Docs  
限定

- 現在のプロジェクトと他のプロジェクト間で共有したフォルダやファイルを管理することができます。

The image illustrates the process of bridging projects in ACC. It consists of three main parts:

- Project Page:** A button labeled "ブリッジプロジェクトを開始" (Start bridging project) is shown. A red box highlights the "新しいプロジェクトの橋渡しをする" (Bridge new project) option.
- Email Invitation:** An email from Hiroe Katano is shown with the subject "Hiroe Katano wants to bridge projects". The body text explains that bridging allows for sharing content between projects and that the invitation expires in 7 days. A red box highlights the "Choose your project to bridge" button.
- Confirmation Dialog:** A dialog box titled "プロジェクトの橋渡しのための招待状を受け入れ×" (Accept invitation for project bridging) is shown. It contains the same text as the email and a "Choose your project to bridge" dropdown menu. A red box highlights the "ブリッジプロジェクト" (Bridge project) button.

※ 両プロジェクトにおいて、プロジェクト管理者である場合、招待状を送信する必要はありません。

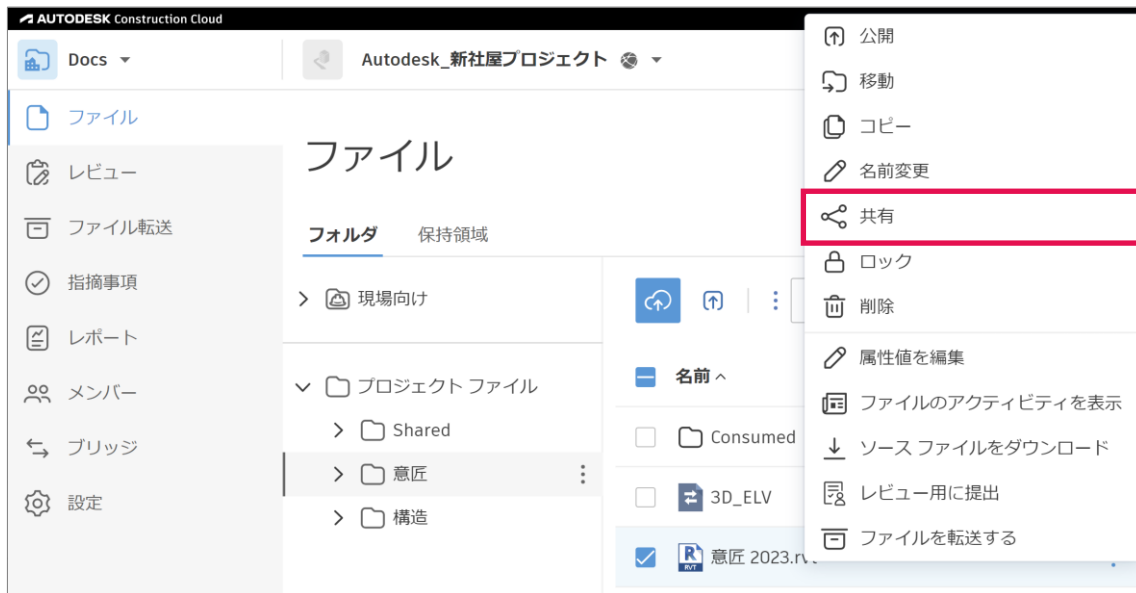
# ブリッジ

## ブリッジについて

ACC Docs  
限定

- 共有方法

1. 他のプロジェクトから、フォルダまたはファイルを選択し、[共有]をクリックします。



# ブリッジ

## ブリッジについて

ACC Docs  
限定

2. [別のプロジェクト]にチェックし、件名を入力します。
3. 共有先プロジェクト、フォルダを選択し、[共有]をクリックします。

### 共有

共有相手 [詳細を表示](#)

- 表示のみ以上のアクセス権限があるプロジェクトメンバー
- リンクがあるすべてのユーザ
- 別のプロジェクト

---

ターゲットプロジェクトに更新を自動的に同期  
選択した親フォルダ内のファイルに対する変更のみが更新されます。選択したファイル、サブフォルダ、サブフォルダ内のファイルは更新されません。

### 件名

タイトルを入力

プロジェクトを選択 \* ⓘ  
🔍 ターゲットプロジェクトを選択

フォルダを選択 \* ⓘ  
🔍 ターゲットプロジェクト内のフォルダを選択

[取消](#) [共有](#)

# ブリッジ

## ブリッジについて

ACC Docs  
限定

- 他のプロジェクトから共有された、また他のプロジェクトへ共有したフォルダやファイル情報が一覧で表示されます。



AUTODESK Construction Cloud

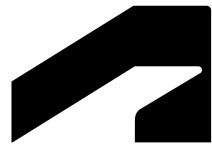
Docs ▾

ブリッジ

ブリッジプロジェクト 送信側 受信側

検索中...

件名	タイプ	プロジェクトへの追加者	受信	承認日	自動化
意匠モデル	ファ...	 Hiroe Katano	 Autodesk_新社...	本日(1...	いいえ



**ステップ 2**  
**ビューアーとしての利用**

## フォルダ管理



## キーワード検索



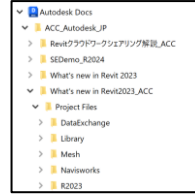
## アクセス権限



## ファイル命名規則 属性管理



## Desktop Connector



## 共有/ダウンロード



## 共有/Bridge\*



## ファイル転送



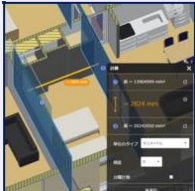
## 2D・3D表示



## 断面解析/ボックス



## 計測



## プロパティ



## モデルブラウザ



## モバイルアクセス



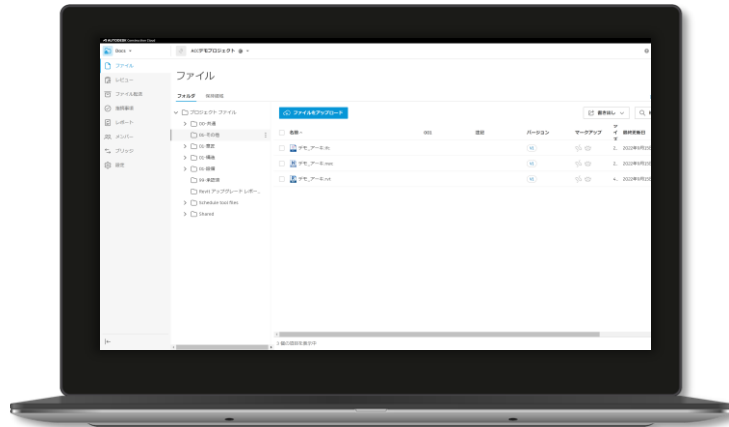
## バージョン管理



## バージョン比較



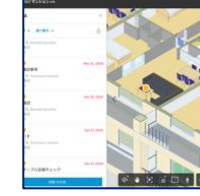
# Autodesk Docs機能



## マークアップ



## 指摘事項



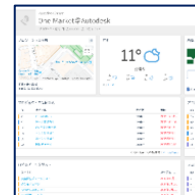
## データ参照



## レビュー



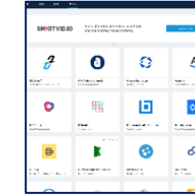
## ダッシュボード



## データコネクタ



## インテグレーション



## 9ヶ国語



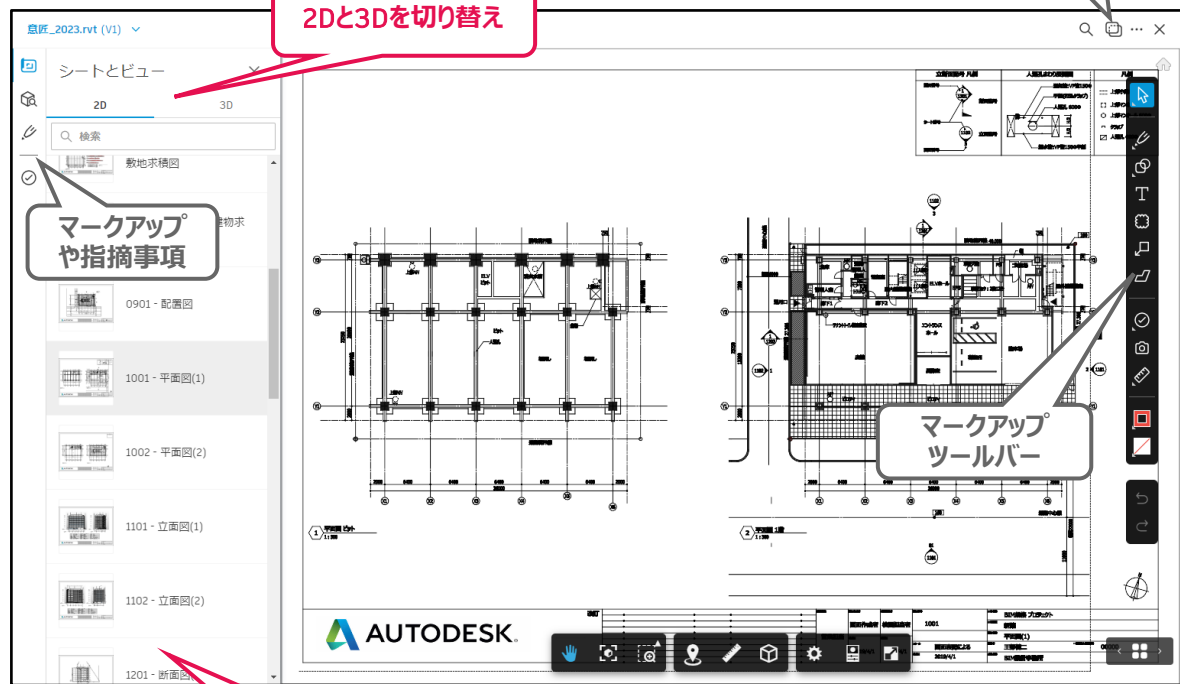
# [ファイル] 2D/3Dファイルの表示

- 2D/3Dファイル表示

- いくつかの種類の3Dファイルはweb上で表示が可能 (rvt,ifc,dwg等) [こちら](#)
- PDFやdwg、Revitのシートなどを表示
- その他、Microsoft Officeファイル表示

- 様々なビュー関連機能

- シートとビュー(2D & 3D切り替え)
- モデルブラウザ (階層・フィルタ)
- 属性情報の表示
- サイズ計測
- バージョン比較\*
- 指摘事項の付与\*  
\* ステップ4で紹介



Rvt内のシート一覧

Demo

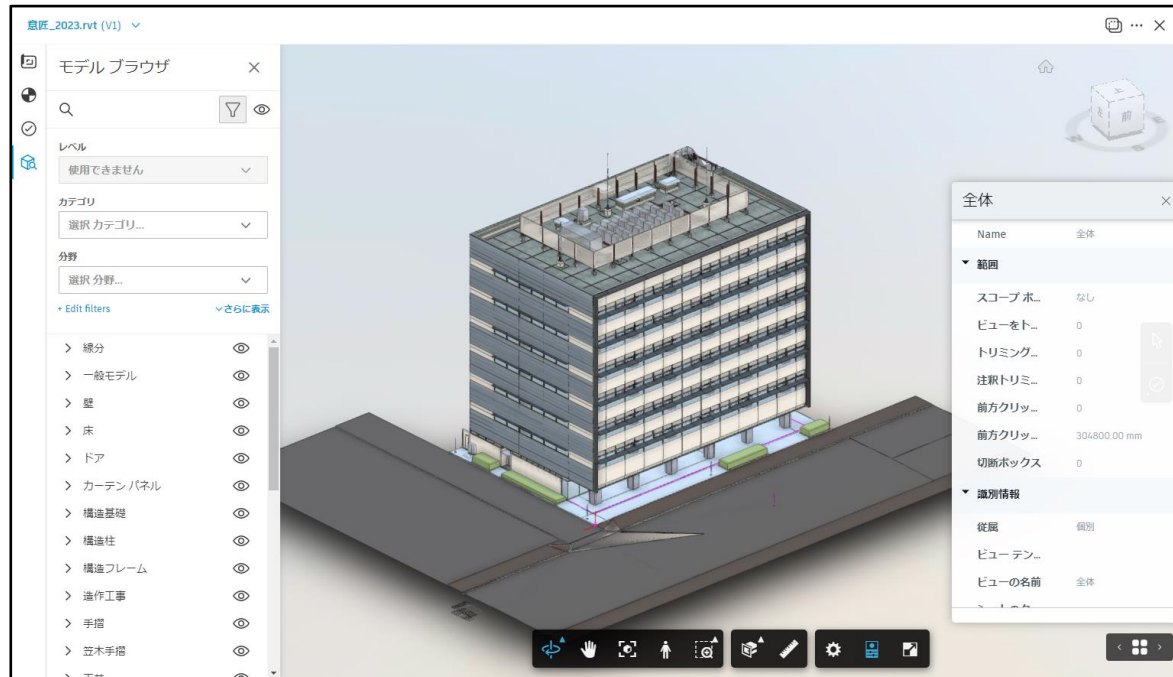
# [ファイル] 2D/3Dファイルの表示

## ● 2D/3Dファイル表示

- いくつかの種類の3Dファイルはweb上で表示が可能 (rvt,ifc,dwg等) [こちら](#)
- PDFやdwg、Revitのシートなどを表示
- その他、Microsoft Officeファイル表示

## ● 様々なビュー関連機能

- シートとビュー(2D & 3D切り替え)
- モデルブラウザ (階層・フィルタ)
- 属性情報の表示
- サイズ計測
- バージョン比較\*
- 指摘事項の付与\*  
\*ステップ4で紹介





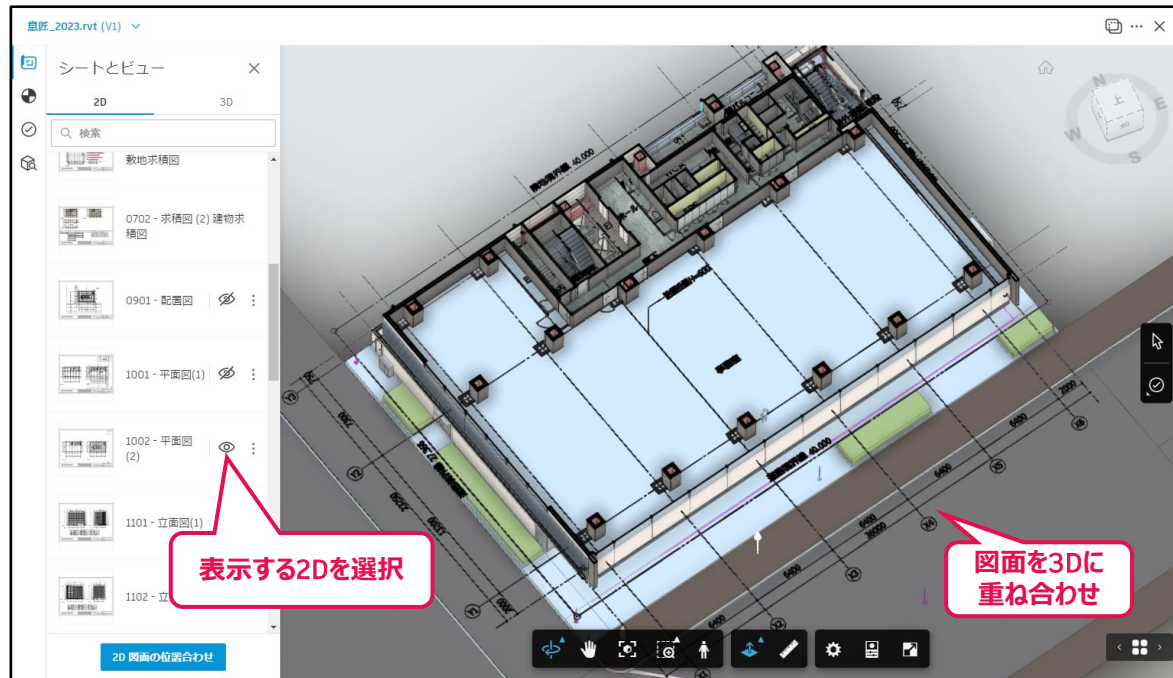
# [ファイル] 2D/3Dの重ね合わせの表示(rvt)

動画？

- **New! ハイバーモデル**

Revitは2Dと3Dの両方の情報を持つ  
るため、2Dと3Dの重ね合わせが可能

※ACCDocs領域に作成されたプロジェ  
クトのみ、BIM360領域では使用できま  
せん

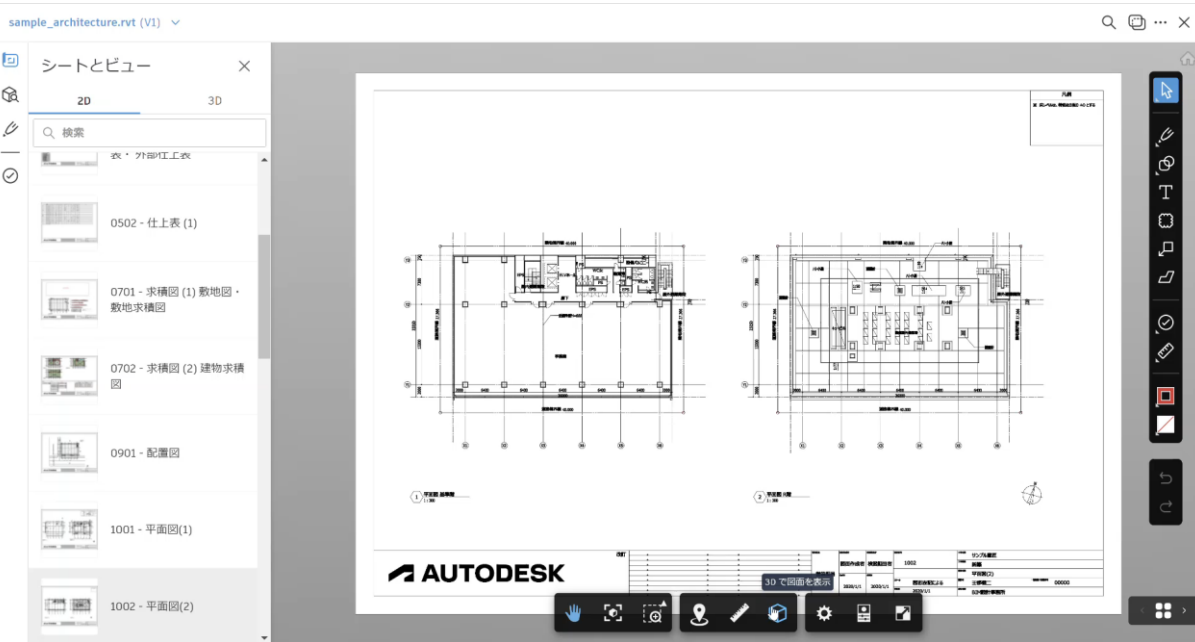


# [ファイル] 2D/3Dの重ね合わせの表示(rvt)

- **New! ハイバーモデル**

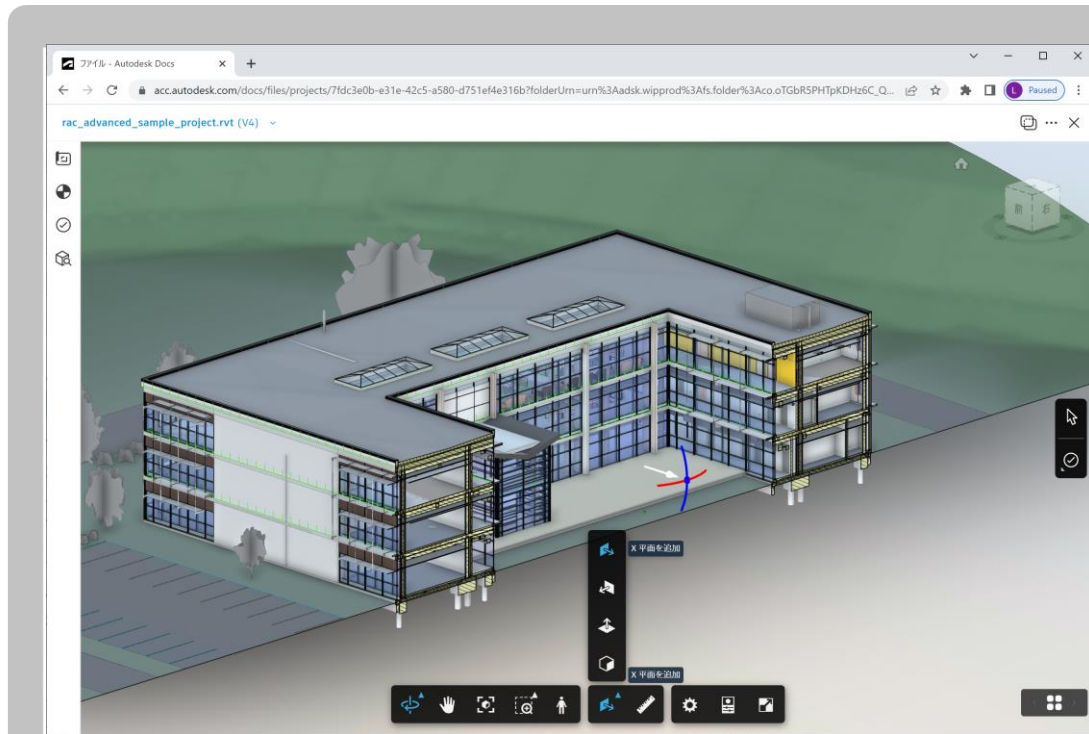
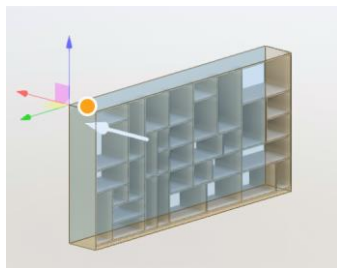
Revitは2Dと3Dの両方の情報を持つ  
るため、2Dと3Dの重ね合わせが可能

※ACCDocs領域に作成されたプロジェ  
クトのみ、BIM360領域では使用できま  
せん



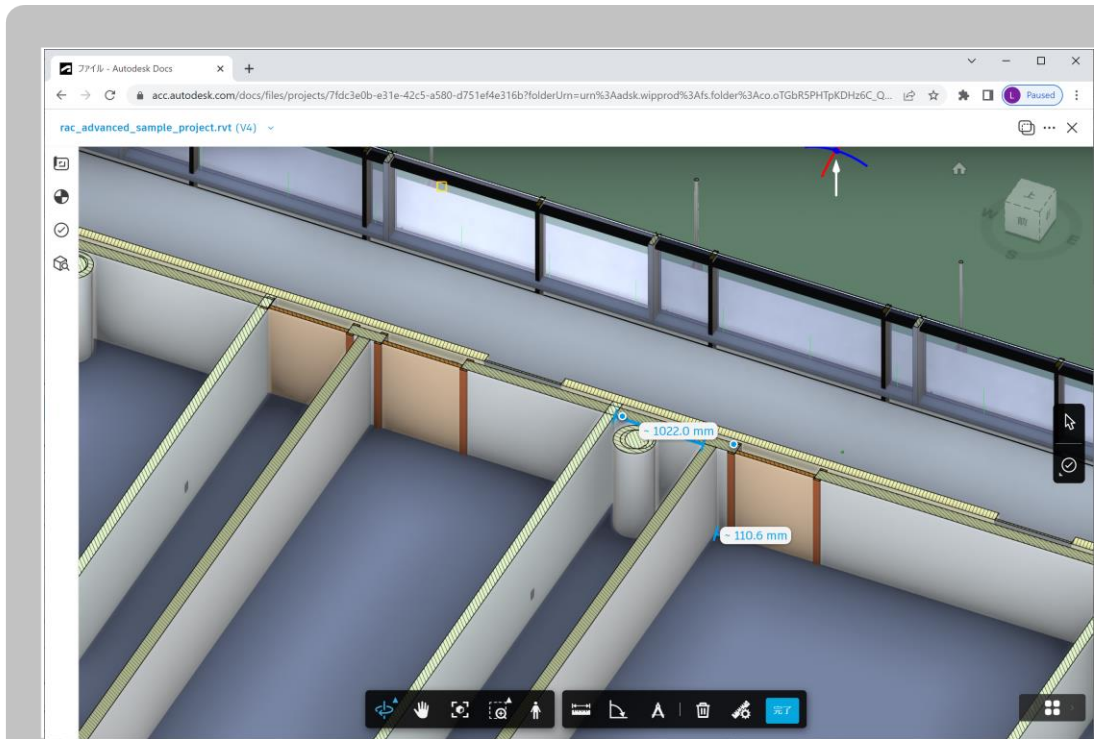
# [ファイル] 断面解析/断面ボックス

- ブラウザ上でBIMモデルの断面表示
- 4種類の断面表示方法があります：
  - X平面
  - Y平面
  - Z平面
  - 立方体
- 要素を選択
  - 断面オブジェクト
  - 断面ボックス



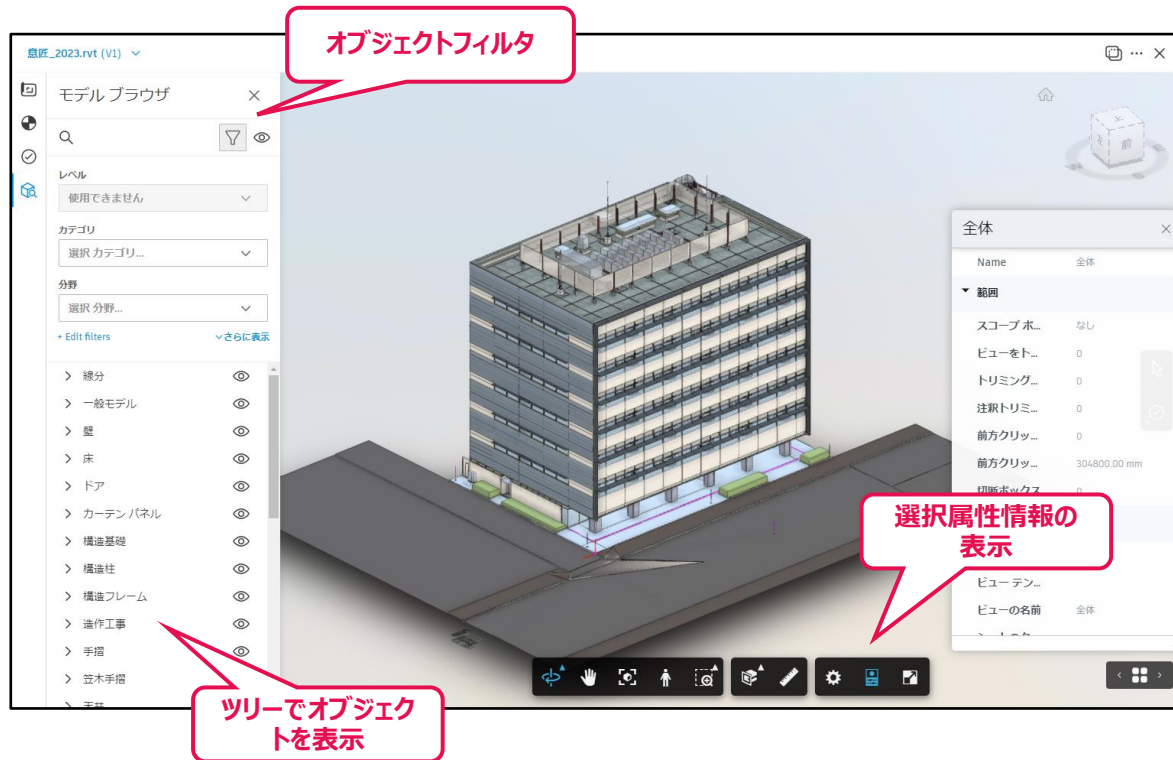
# 【ファイル】計測

- 計測は2D・3D上で可能  
長さ、角度、面積
- PDFや写真、RVTEモデル上で計測可能
- スケールを設定  
単位指定も指定できます。
- 作業環境Chrome推奨  
動作環境を確認ください [こちら](#)



# [ファイル] プロパティ表示

- Docsに置かれたRevitモデルの場合、  
選択要素は2D/3D間でハイライト  
されます。
- **プロパティ**
  - 2D/3Dビューで要素を選択し、  
要素に含まれる属性情報を確認
- **モデルブラウザ**
  - 要素に含まれる情報(レベル、カテゴリ、  
分野等)で階層表示
  - プロパティ情報での絞り込み、  
フィルタ表示が可能



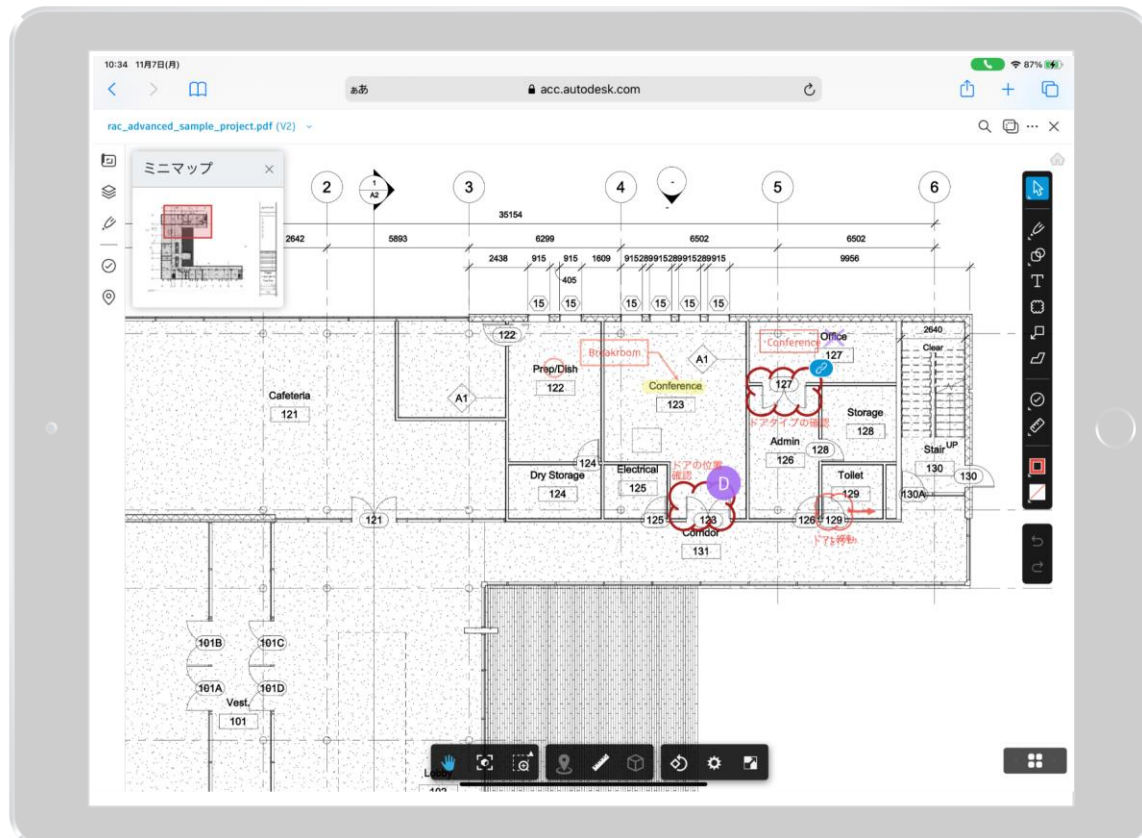


# モバイルアクセス

- iOS と Android の携帯とタブレットで閲覧が可能
- プロジェクトファイルを開覧、指摘事項\*を表示することが可能
- 表示可能なファイルは[こちら](#)
- 常に最新のプロジェクト情報にアクセス
- 予めダウンロードしプロジェクトをオフラインで閲覧可能



\* ステップ4で紹介



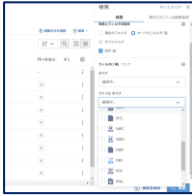
An abstract, three-dimensional geometric structure on the left side of the slide, composed of dark, reflective metallic-looking surfaces and white, translucent rectangular planes. The structure is tilted and appears to be part of a larger, complex assembly.

**ステップ 3**  
**プロジェクト“データ”管理**

フォルダ管理



キーワード検索



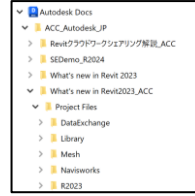
アクセス権限



ファイル命名規則  
属性管理



Desktop Connector



共有/ダウンロード



共有/Bridge\*



ファイル転送



2D・3D表示



断面解析/ボックス



計測



プロパティ



モデルブラウザ



モバイルアクセス



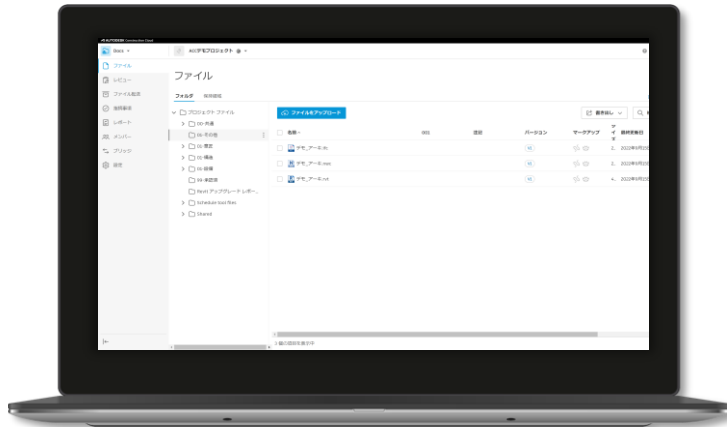
バージョン管理



バージョン比較



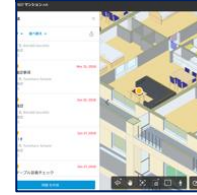
# Autodesk Docs機能



マークアップ



指摘事項



データ参照



レビュー



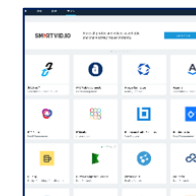
ダッシュボード



データコネクタ



インテグレーション



9ヶ国語

- Danish
- Dutch
- French
- German
- Japanese
- Portuguese (Brazil)
- Simplified Chinese
- Spanish
- Swedish

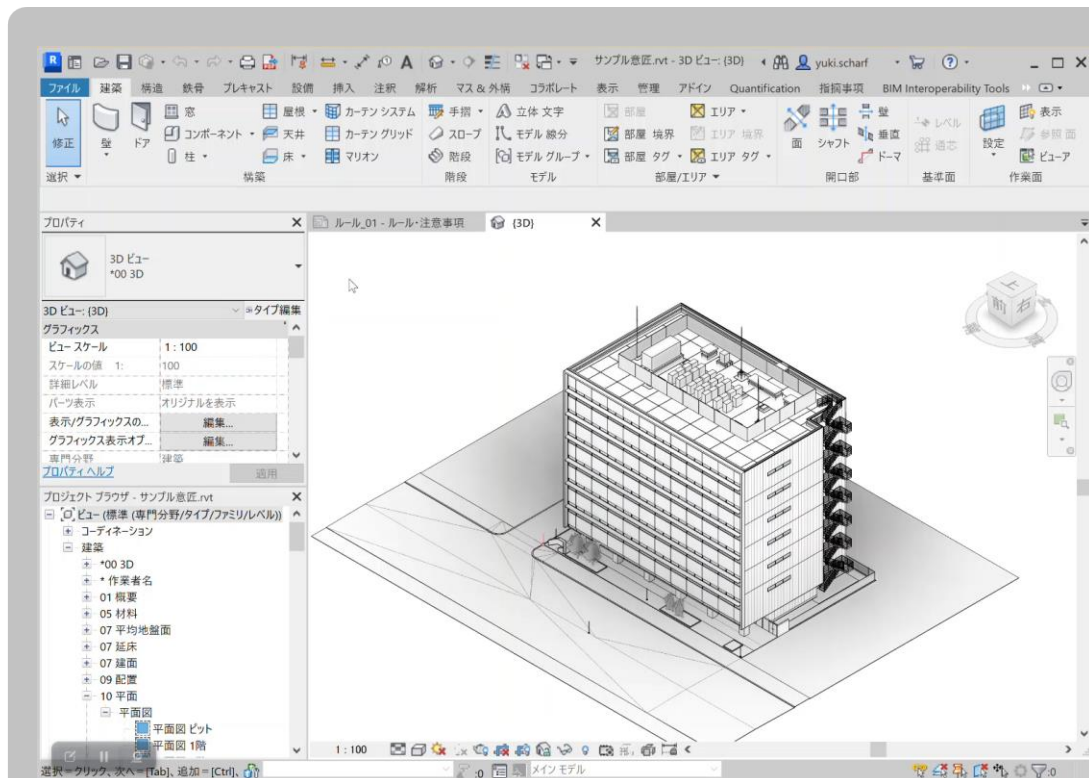




# 編集\_オートデスク製品

- デスクトップ製品から  
Docsへ直接保存・パブリッシュ
  - Revit\*
  - AutoCAD
  - Plant 3D\*
  - Civil3D\*  
Revit地形モデルをDocs上の  
Civil3Dデータから自動生成
  - InfraWorks
  - ReCap  
点群データをDocsへパブリッシュ、閲覧、注釈  
などが可能

\*BIMCollaborateProライセンス  
ワークシェアリングが可能



# 編集\_オートデスク製品

- デスクトップ製品から Docsへ直接保存・パブリッシュ
  - Revit\*
  - AutoCAD
  - Plant 3D\*
  - Civil3D\*  
Revit地形モデルをDocs上の Civil3Dデータから自動生成
  - InfraWorks
  - ReCap  
点群データをDocsへパブリッシュ、  
閲覧、注釈などが可能

\*BIMCollaborateProライセンス  
ワークシェアリングが可能

## Revit2024機能

### デザイン生産性（共通・建築）

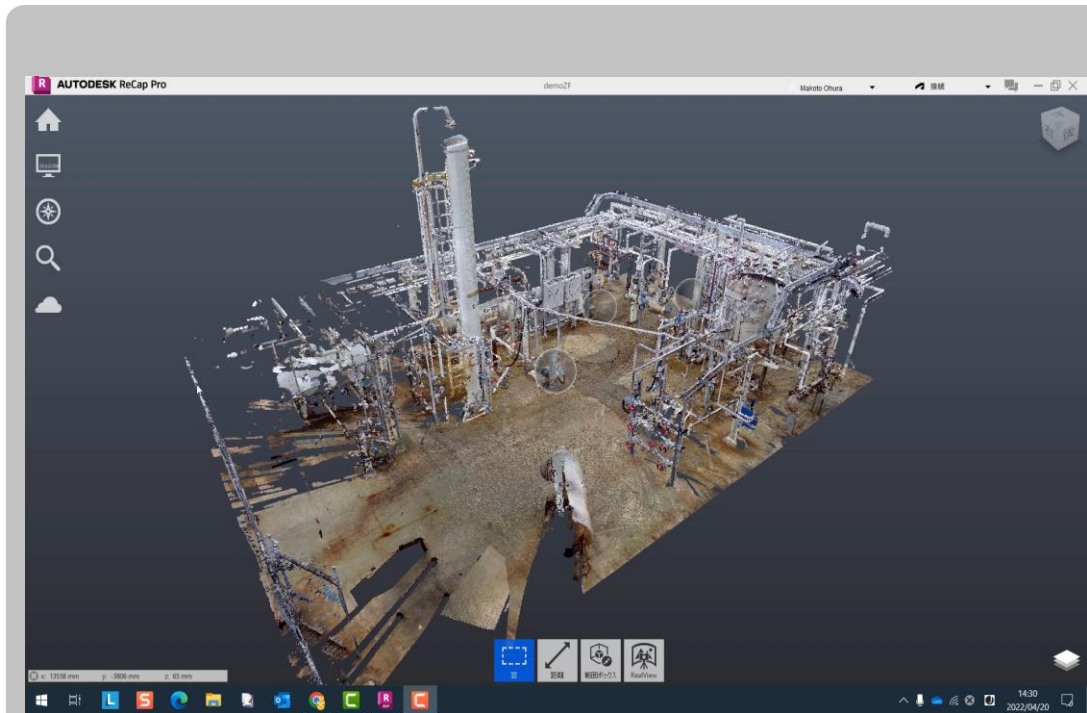
- 敷地デザインツール
  - ✓地形ソリッド作成
  - ✓地形ソリッドのタイプとプロパティ
  - ✓地形ソリッドの編集

# 編集\_オートデスク製品

- デスクトップ製品から  
Docsへ直接保存・パブリッシュ

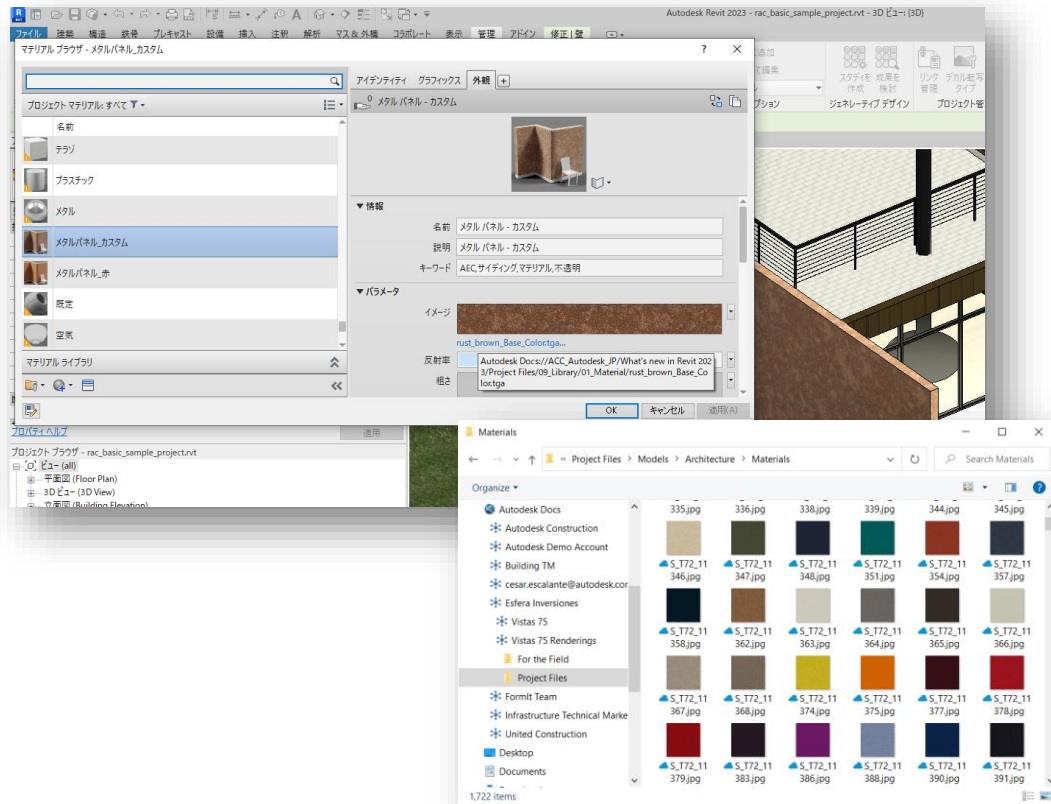
- Revit\*
- AutoCAD
- Plant 3D\*
- Civil3D\*  
Revit地形モデルをDocs上の  
Civil3Dデータから自動生成
- InfraWorks
- ReCap  
点群データをDocsへパブリッシュ、  
閲覧、注釈などが可能

\*BIMCollaborateProライセンス  
ワークシェアリングが可能



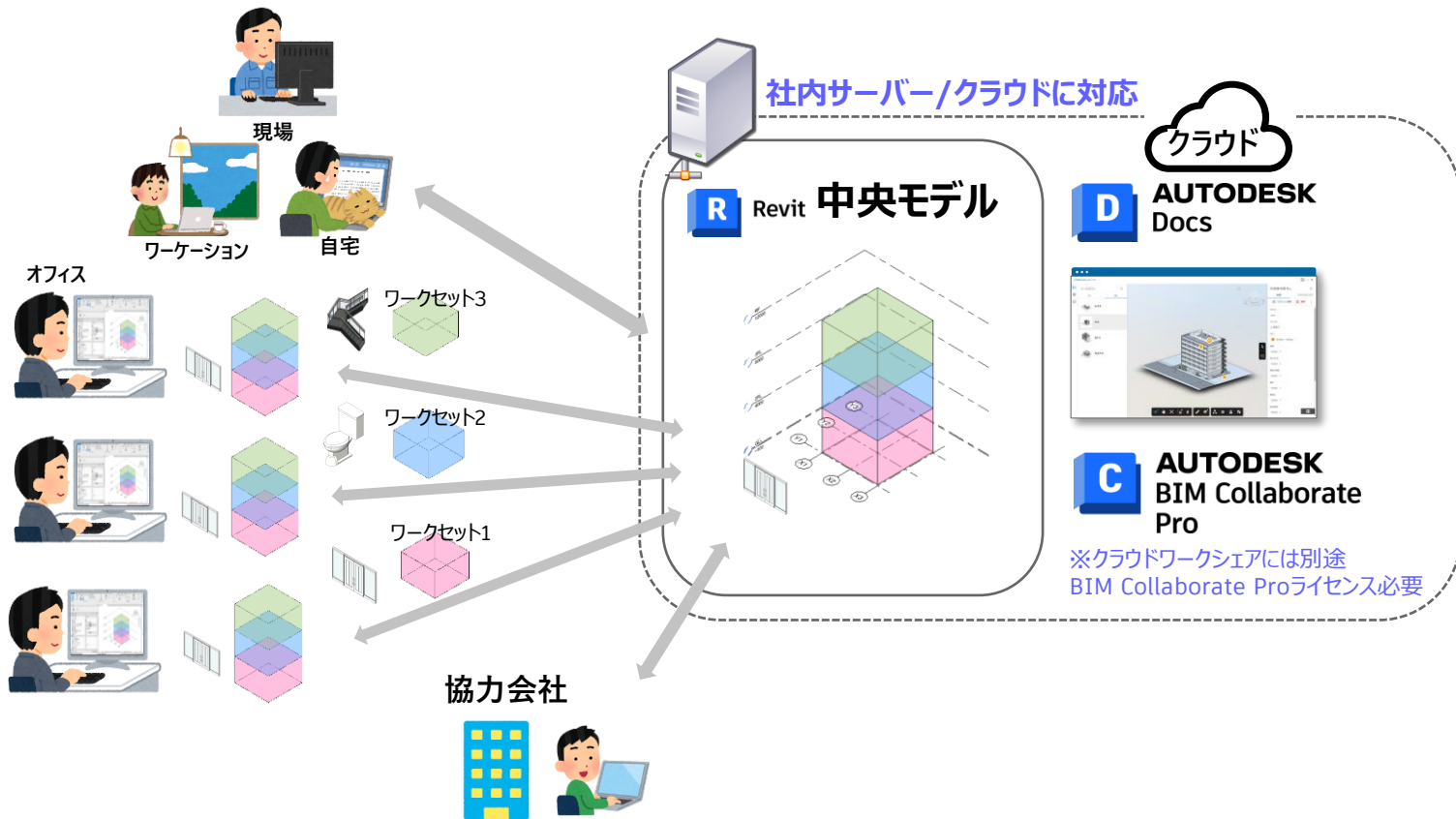
# 編集\_オートデスク製品

- Revit関連データ
  - Revit2023以降
  - **マテリアルカスタムテクスチャ保存**
  - Docs上で保存・チームでの共有
  - クラウドモデルへの適応が可能



# BIMデータも共同作業を行うとより効果的

Revitなら、CDEでのワークシェアリングに対応

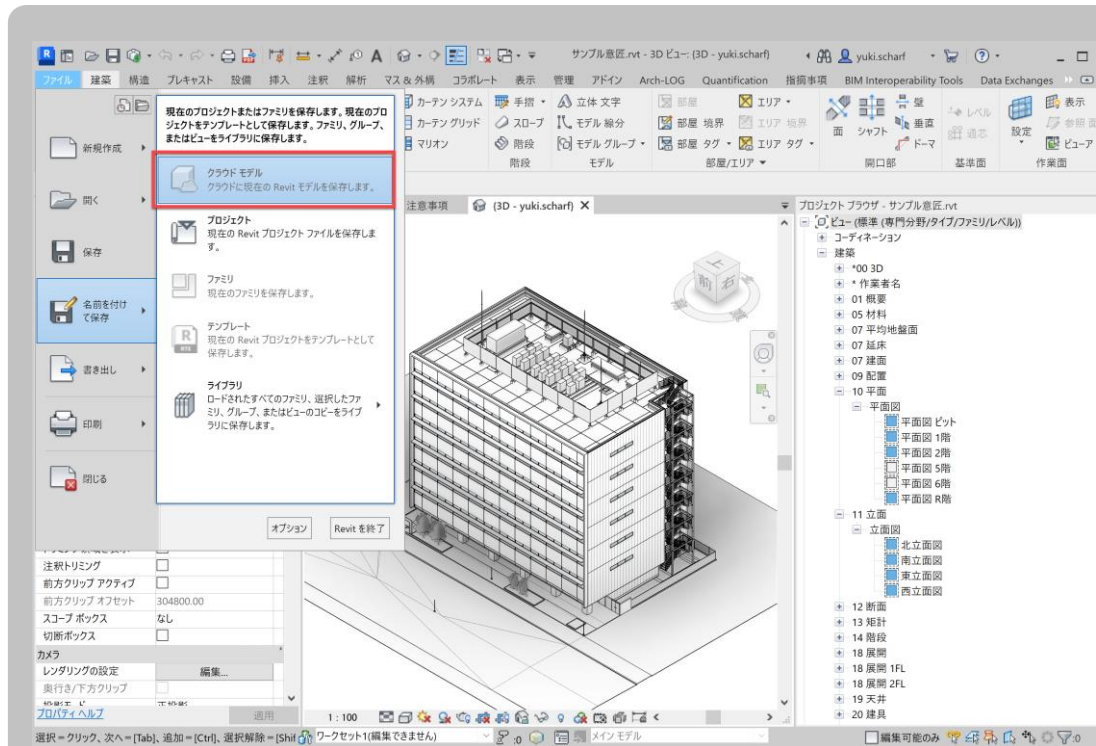




# 編集\_オートデスク製品

- デスクトップ製品から Docsへ直接保存・パブリッシュ
  - Revit\*
  - AutoCAD
  - Plant 3D\*
  - Civil3D\*  
Revit地形モデルをDocs上の Civil3Dデータから自動生成
  - InfraWorks
  - ReCap  
点群データをDocsへパブリッシュ、閲覧、注釈などが可能

\*BIMCollaborateProライセンス  
ワークシェアリングが可能

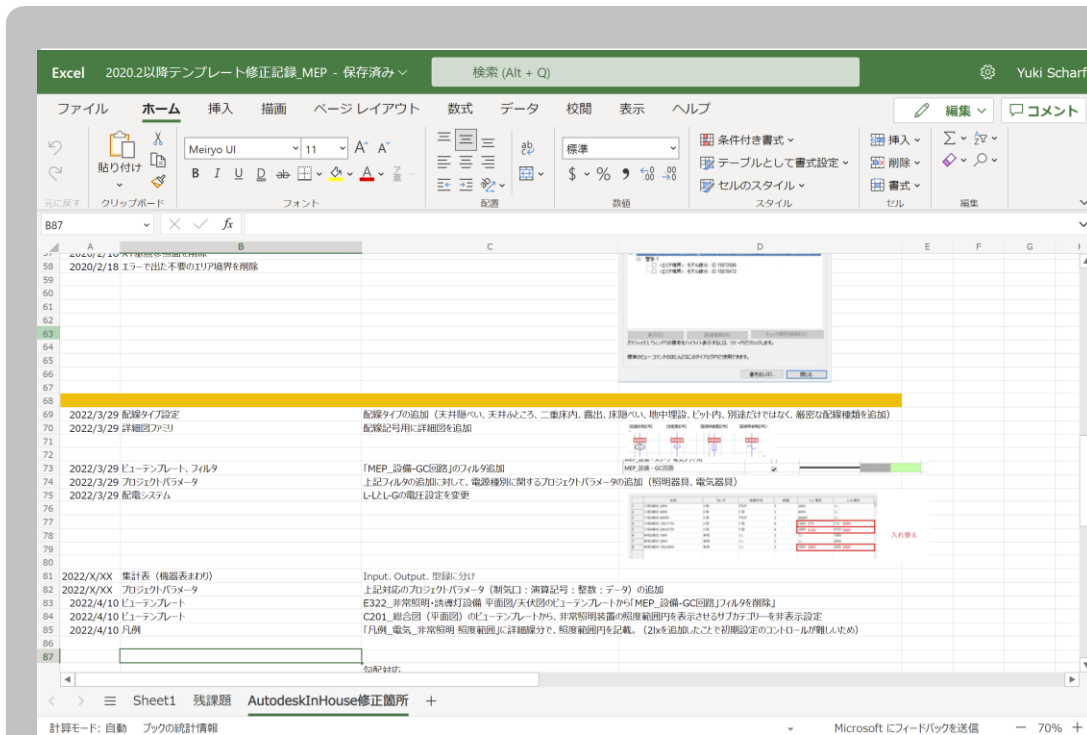


# 編集\_Microsoft® Office

## ● Microsoft® Office ファイル

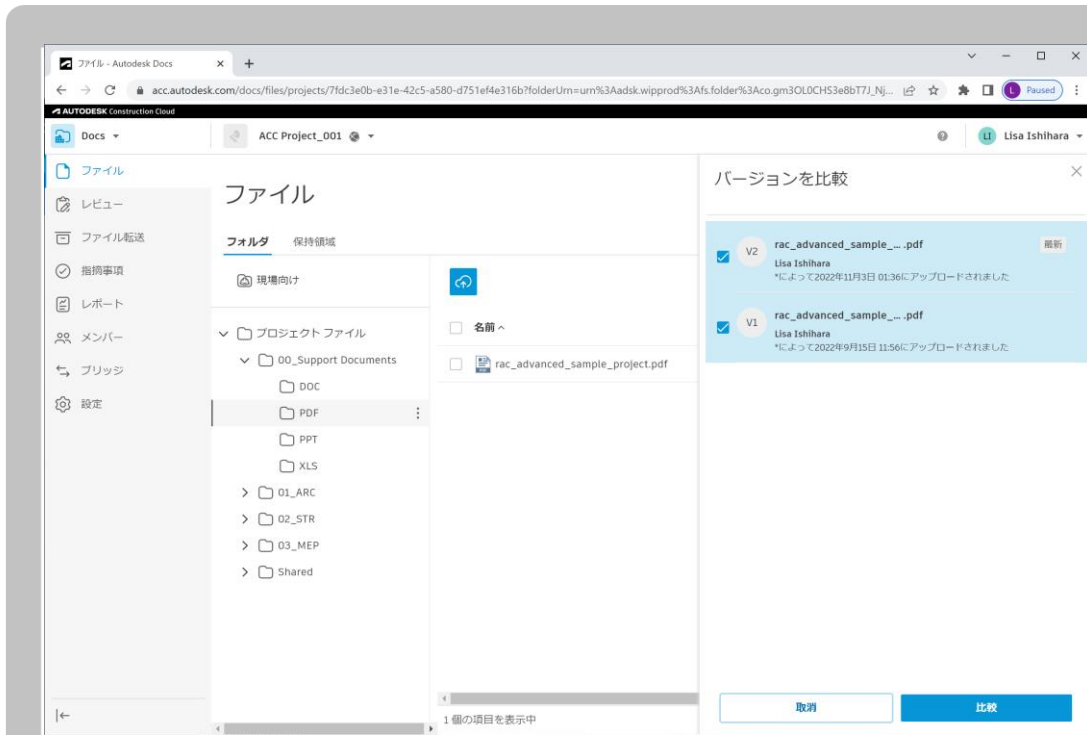
- Excel、word、PowerPointの編集、Visioのファイル共有が可能。  
詳細は[こちら](#)

- Excel、word、PowerPoint **同時編集**が可能  
※鍵マークが表示されますが編集可



# [ファイル] バージョン管理

- 同じフォルダ先に、ファイル名でアップロードすると、自動的にバージョンを更新して保存します。
- ファイルを選択すると、今までのバージョン全てを確認することが出来ます。
- パブリッシュされたモデルのバージョンを表示画面で切り替え可能





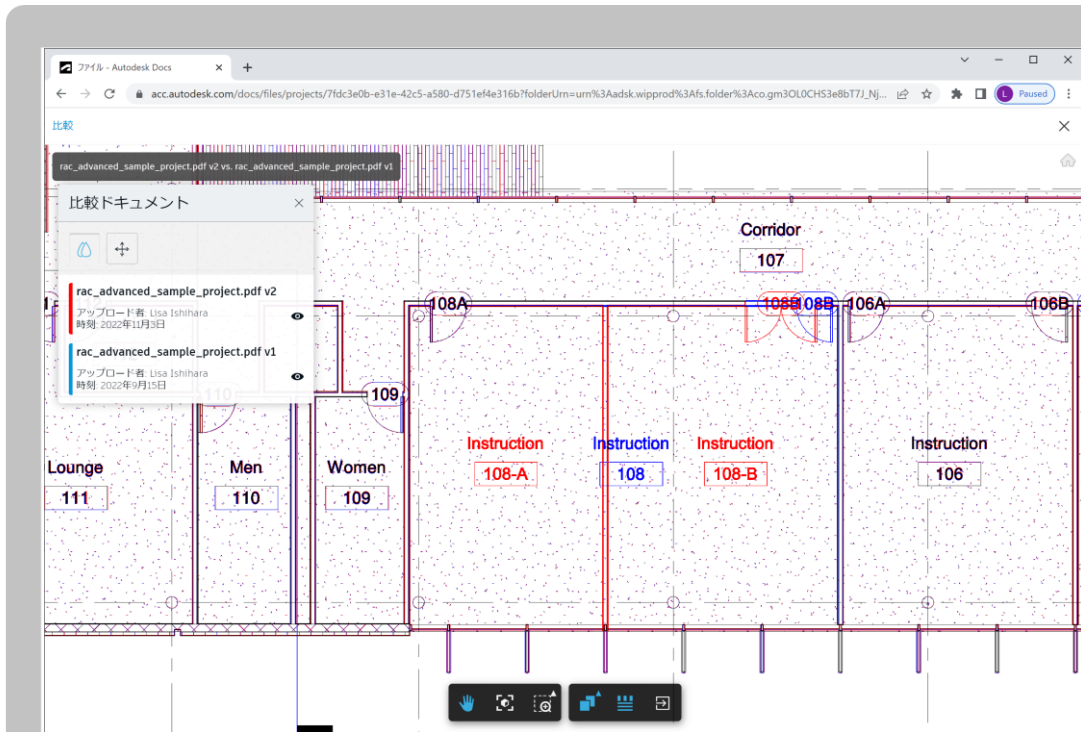
# [ファイル] バージョン比較

- 同ファイルで記録された異なるバージョンを比較することができます。
- Revit
  - 2D、3Dそれぞれのバージョン比較に対応
  - 右に新しいバージョン、左に古いバージョンを選択
  - 並べて表示
  - 追加・削除・変更を色分け表示
  - 変更が多い場合はCSVで一覧を書き出し
  - 要素IDでの変更箇所管理が可能



# [ファイル] バージョン比較

- DWG/PDFの場合
  - バージョンの比較を青と赤で表示します。
  - 図面を並べて表示し、比較することも出来ます。
  - 比較のタイプ：
    - オーバーレイ（重ねて表示）
    - 並べて表示





**ステップ 4**  
**プロジェクト“業務”管理**

フォルダ管理



キーワード検索



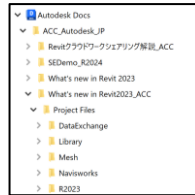
アクセス権限



ファイル命名規則  
属性管理



Desktop Connector



共有/ダウンロード



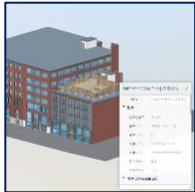
共有/Bridge\*



ファイル転送



2D・3D表示



断面解析/ボックス



計測



プロパティ



モデルブラウザ



モバイルアクセス



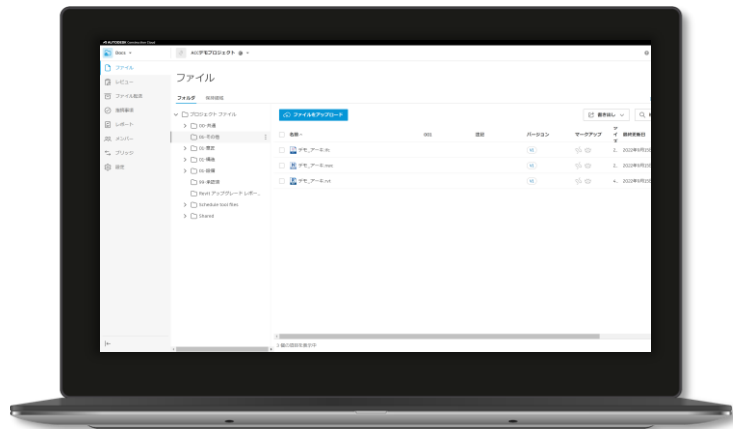
バージョン管理



図面比較



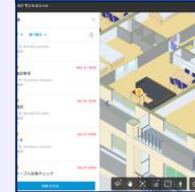
# Autodesk Docs機能



マークアップ



指摘事項



データ参照



レビュー



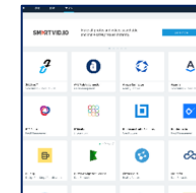
ダッシュボード



データコネクタ



インテグレーション



9ヶ国語





# [指摘事項] 指摘事項の一覧/作成

- 指摘事項の一覧ページ
- 指摘事項を単独で作成  
図面や3Dビューがなくても作成が可能
  - 指摘事項では、さまざまな項目が管理できます\*
  - カテゴリー/タイプ
  - ステータス
  - 担当者/監視者
  - 場所（事前登録が必要）
  - 期日/開始日
  - 配置先（モデルや図面に作成した場合）
  - 参照先
  - コメント欄

Autodesk Construction Cloud interface showing the '指摘事項' (Issues) management page. The page displays a list of issues with columns for '件名' (Name), 'ID', 'ステータス' (Status), 'タイプ' (Type), and '担当者' (Assignee). A red box highlights the '+ 指摘事項を作成' (Create Issue) button. Another red box highlights the '公開/非公開を管理できます' (Manage public/private) option in the details panel for issue #47. The details panel shows fields for '件名', 'ステータス', 'タイプ', '説明', '担当者', '監視者', '場所', '場所の詳細', and '期日'.

件名	ID	ステータス	タイプ	担当者
011_エルボ [17301083] および S_G_H...	#53	未完了	Clash	-
0-1_取合い調整	#52	完了	0-1_取合...	-
0-1_取合い調整	#51	完了	0-1_取合...	-
0-2_作図前確認事項	#50	未完了	0-2_作図...	-
修正しておいてください	#49	レビュー中	0-2_作図...	Azusa Suzuki
0-1_取合い調整	#48	未完了	0-1_取合...	-
0-2_作図前確認事項	#47	未完了	0-2_作図...	-
0-1_取合い調整	#46	未完了	0-1_取合...	-
99_その他	#45	完了	0-1_取合...	Azusa Suzuki
承認	#44	完了	0-1_取合...	-

\*指摘事項の設定管理については別途資料

# [指摘事項] 指摘事項の一覧/作成

- 指摘事項の一覧ページ
- 指摘事項を単独で作成  
図面や3Dビューがなくても作成が可能
  - 指摘事項では、さまざまな項目が管理できます\*
  - カテゴリー/タイプ
  - ステータス
  - 担当者/監視者
  - 場所（事前登録が必要）
  - 期日/開始日
  - 配置先（モデルや図面に作成した場合）
  - 参照先
  - コメント欄

\*指摘事項の設定管理については別途資料

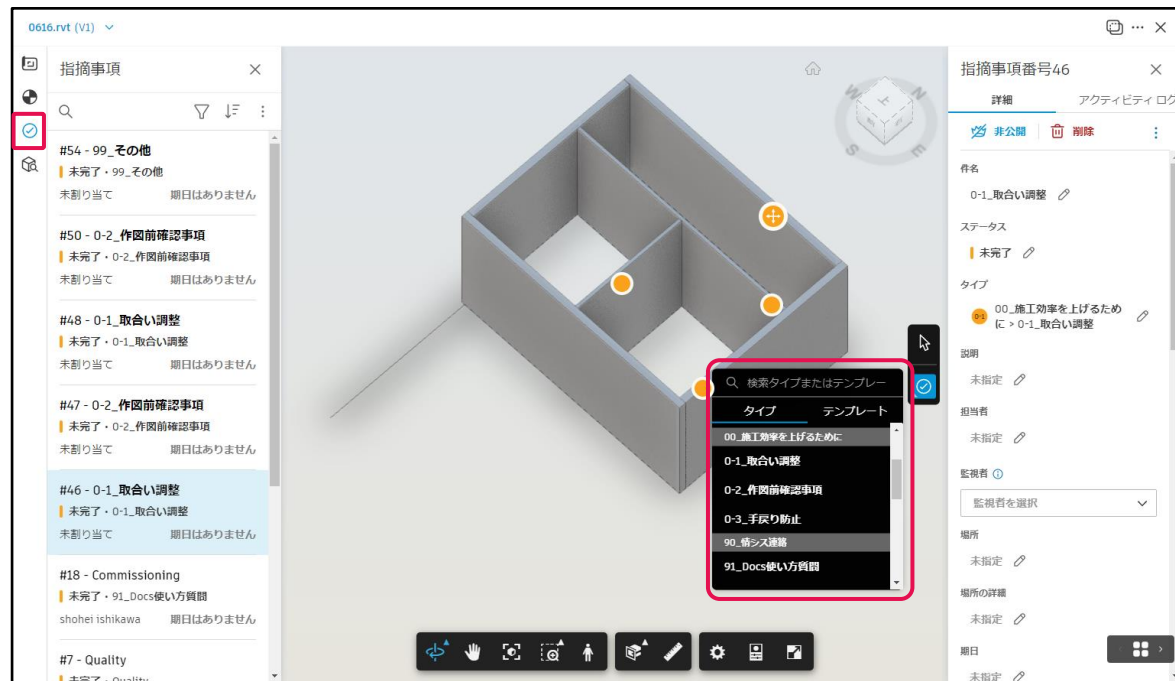
Autodesk Construction Cloud interface showing the '指摘事項' (Issues) management page. The page displays a list of issues with columns for '件名' (Item Name), 'ID', 'ステータス' (Status), 'タイプ' (Type), and '担当者' (Assignee). A red box highlights the '+ 指摘事項を作成' (Create Issue) button. Another red box highlights the 'コメントを作成し、課題解決に向けたやり取りを記録できます' (Create comments and record communication for issue resolution) text. The right sidebar shows details for a specific issue, including '指摘事項番号47', '非公開' (Private), '削除' (Delete), '開始日' (Start Date), '配置先' (Location), '根本原因' (Root Cause), '参照先' (Reference), and 'コメント' (Comments).

件名	ID	ステータス	タイプ	担当者
011_エルボ [17301083] および S_G_H...	#53	未完了	Clash	-
0-1_取合い調整	#52	完了	0-1_取合...	-
0-1_取合い調整	#51	完了	0-1_取合...	-
0-2_作図前確認事項	#50	未完了	0-2_作図...	-
修正してしてください	#49	レビュー中	0-2_作図...	Azusa Suzuki
0-1_取合い調整	#48	未完了	0-1_取合...	-
0-2_作図前確認事項	#47	未完了	0-2_作図...	-
0-1_取合い調整	#46	未完了	0-1_取合...	-
99_その他	#45	-	-	-
承認	#44	-	-	-



# [指摘事項] 指摘事項の一覧/作成

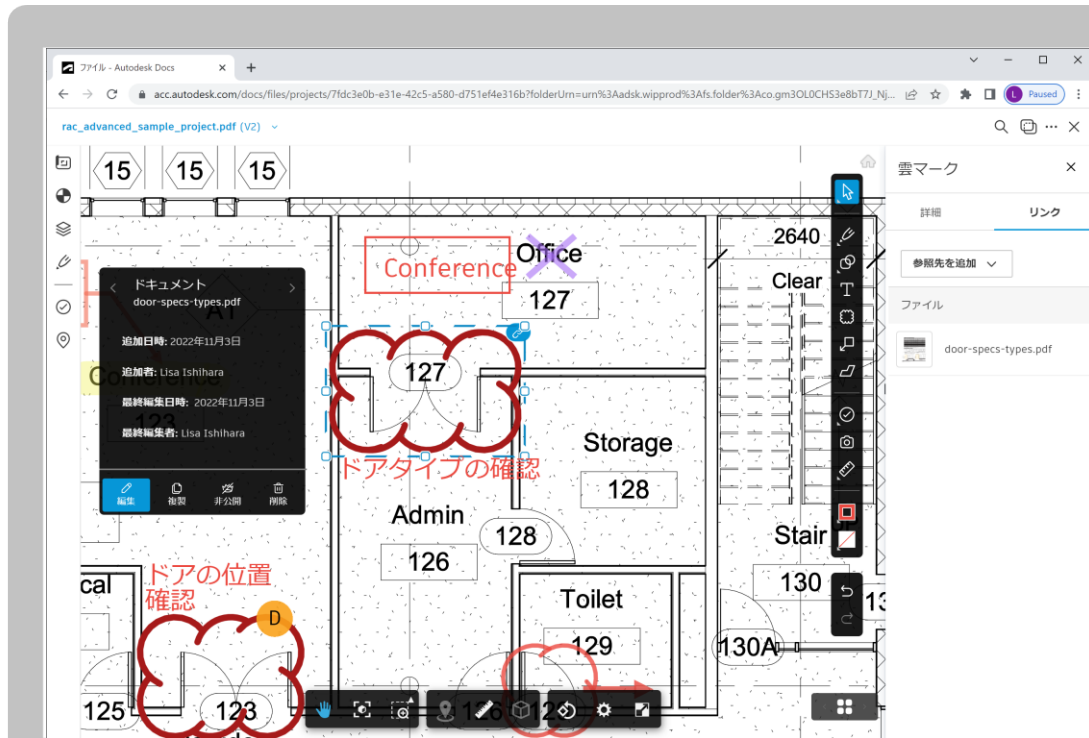
- 2D/3Dビューで指摘事項を作成
- 図面やモデルにピンを刺して、指摘事項の位置を登録できます
- 左側のメニューから指摘事項の一覧を表示できます
- デスクトップとの連携アドイン
  - デスクトップ側での指摘事項の参照も可能
  - Revit (閲覧のみ)
  - Navisworks(閲覧・作成が可能)





# [ファイル] リンク (参照先)

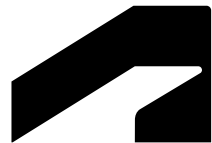
- Docs内に保存されたデータを参照先として追加
  - マークアップ（朱書き）・指摘事項に、プロジェクト内に保存されているファイルを参照先として紐づけることができます。
  - 参照したファイルを選択すると、そのファイルを表示することができます。



# [レビュー] 承認プロセス

- 承認ワークフローを作成  
1～6段階承認/2～4段階グループ承認
- 開始者、レビュー担当者を設定
- ファイルレビューの選択可能なステータスを設定
  - 承認、却下の他、コメント付きなどをカスタマイズ可能
- 完了時に保存されるフォルダを指定
  - 作業中、共有、パブリッシュ、アーカイブ

The screenshot displays the Autodesk Construction Cloud interface for a review process. The main window shows a document titled "00\_SampleModel.rvt (V2)" with a review status of "レビュー / #19 デザインレビュー-14". A dropdown menu is open, showing options for review status: "承認" (Approve), "却下" (Reject), and "却下(コメント付き)" (Reject with comment). A dialog box titled "承認ワークフローを作成" (Create Approval Workflow) is open, showing a list of templates: "3段階承認", "4段階承認", "5段階承認", "6段階承認", and "2段階グループ承認". A red arrow points from the dialog box to the review status dropdown menu. On the right side, a notification box titled "最終レビュー" (Final Review) indicates that the review is being retained by Autodesk iClone and has a deadline of July 31, 2023. Below the notification, there are buttons for "タスクを委任" (Assign task) and "レビューを提出" (Submit review). The bottom right corner shows the current step's participants and assignees, including Yuki Scharf and Autodesk iClone.

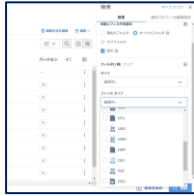
An abstract 3D geometric structure on the left side of the slide, composed of several interconnected, semi-transparent rectangular blocks with sharp edges and a metallic sheen, creating a sense of depth and complexity.

**ステップ 5**  
**データ可視化と分析に利用**

フォルダ管理



キーワード検索



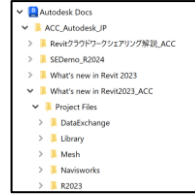
アクセス権限



ファイル命名規則  
属性管理



Desktop Connector



共有/ダウンロード



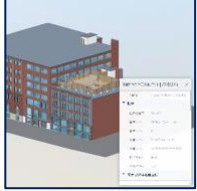
共有/Bridge\*



ファイル転送



2D・3D表示



断面解析/ボックス



計測



プロパティ



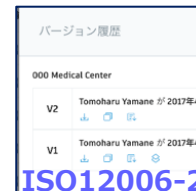
モデルブラウザ



モバイルアクセス



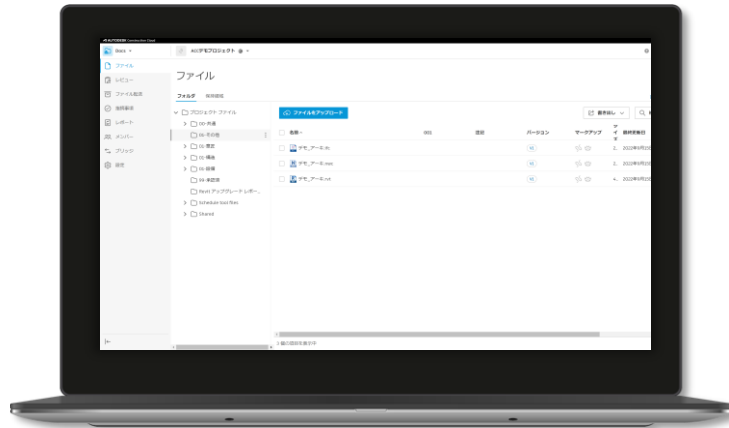
バージョン管理



図面比較



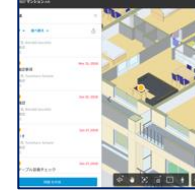
# Autodesk Docs機能



マークアップ



指摘事項



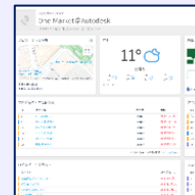
データ参照



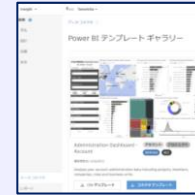
レビュー



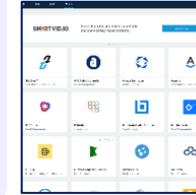
ダッシュボード



データコネクタ



インテグレーション



9ヶ国語



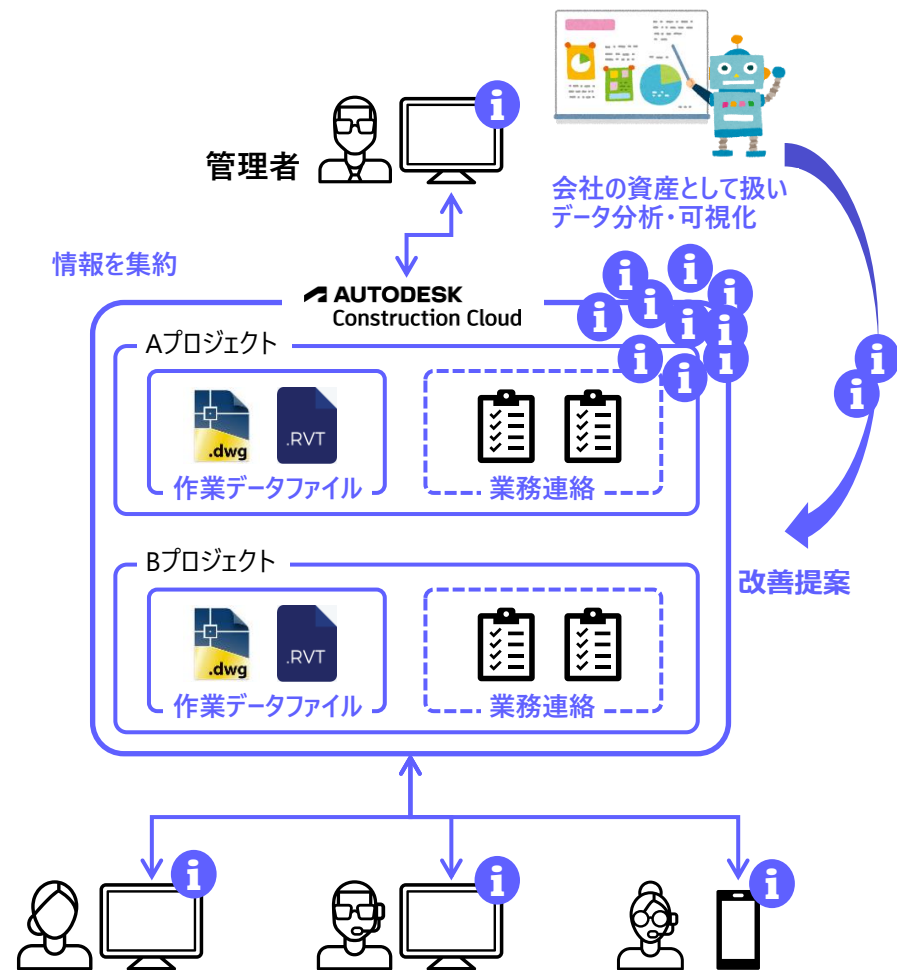
# データが集まる仕組み

## ● アカウント情報

- メンバー情報、役割、アクセスレベル等
- メンバーのアクセス履歴
- 各プロジェクト情報以下を含む

## ● プロジェクト情報

- プロジェクト情報
- プロジェクトメンバー情報、役割等
- ファルダやファイルへのアクティビティ履歴
- 各機能での設定状況や更新履歴
  - Docs = 指摘事項、レビュー、ファイル転送等



# [補足]データ書き出し

- **書き出し** (基本、機能毎に存在)

## Autodesk Docsで使用可能な機能

- **ファイル**  
ファイルアクティビティ (csv)  
フォルダ内ファイル、カスタム属性ログ (xlsx)
- **レビュー**
- **ファイル転送**
- **指摘事項**
- **レポート** (書き出し・表示)
- **メンバー** (Project & Account単位)  
プロジェクト参加メンバー、役割等
- **ブリッジ** (現在なし)



# [レポート]

## ● レポート

- 書き出し履歴一覧で確認
- Docs指摘事項
  - PDFでの指摘事項のレポート作成等
  - 書き出しテンプレートの作成
  - 定期的な書き出しをスケジュールリング

## レポート

レポートログ    テンプレート

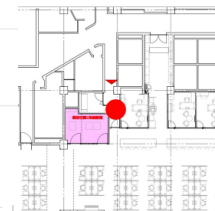
+ レポートを作成

件名 ⓘ

📄 重複ファイルレポート

📄 ファイルログレポート

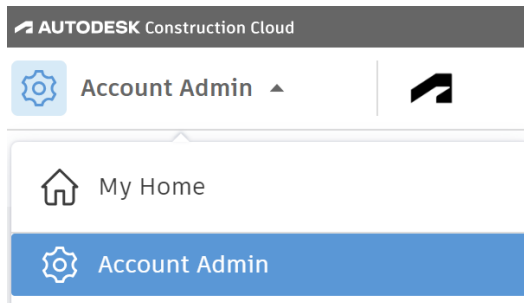
指摘事項の詳細



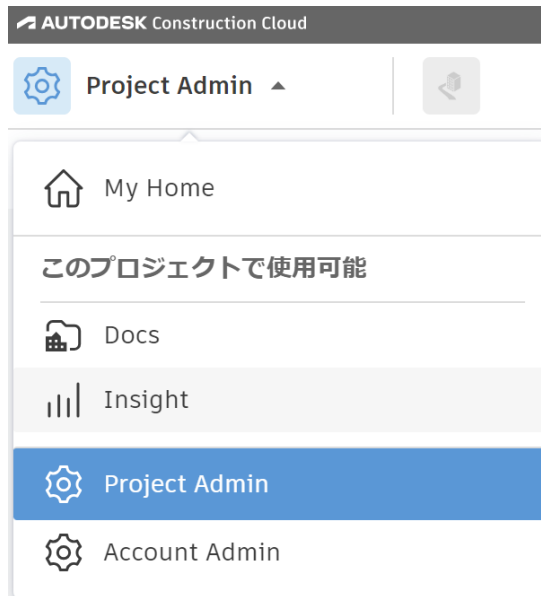
場所	—
場所の詳細	—
期日	—
開始日	—
配置先	SampleModel_ISJ_R2023.rvt
根本原因	—

# [補足] 2つのInsight

- Account Adminから  
アカウントレベルでの情報取得



- Project Admin  
プロジェクトレベルでの情報取得

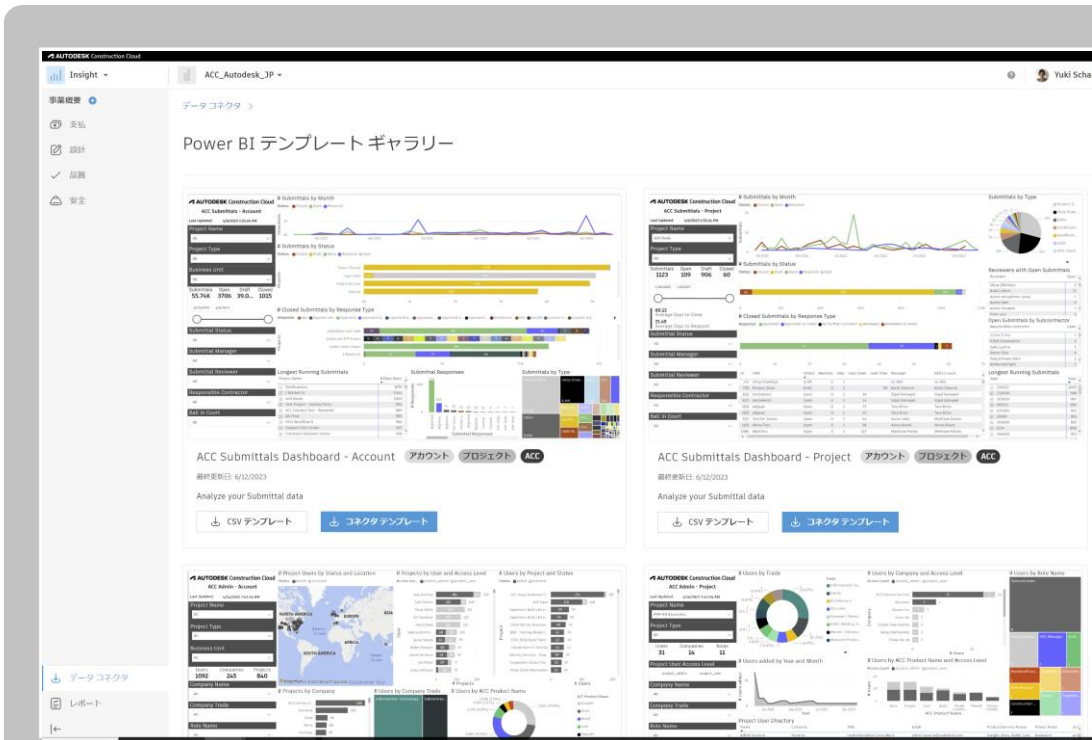




# [Insight] データコネクタ

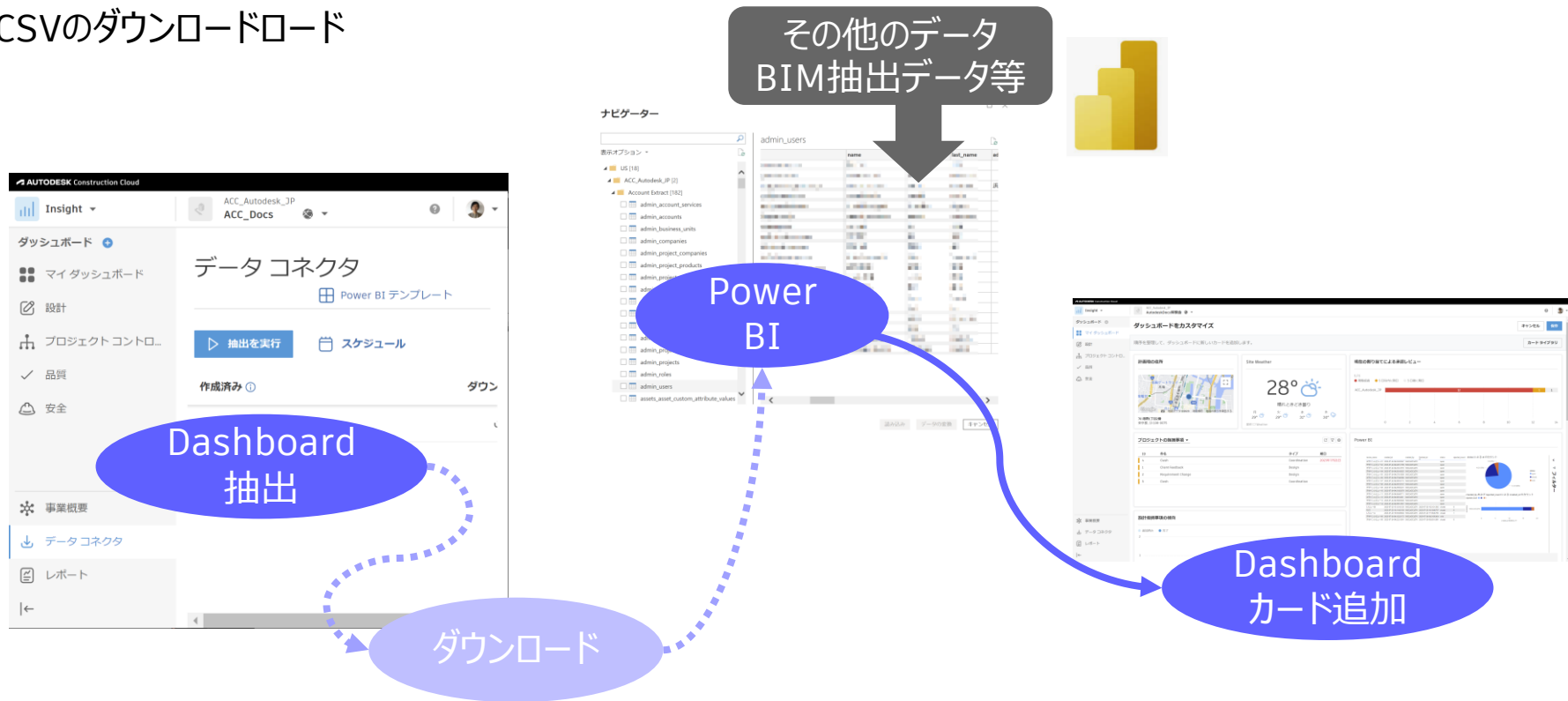
- アカウント情報を含めた書き出し
  - データを単発、或いは定期的にCSV書き出し可能
  - データ可視化用PowerBIテンプレートを公開
  - データコネクタで取り出し可能な情報

アカウントレベル	プロジェクトレベル	
アクティブ化されたサービス	Assets	レビュー
事業部門	Cost	情報提供依頼
会社	フォーム	スケジュール
プロジェクト	Construction IQ	シート
ユーザ	指摘事項	提出物
役割	場所	転送パッケージ
	議事録	写真
	データ間の関係。	
	たとえば、現場変更依頼に関連する情報提供依頼など。	マークアップ



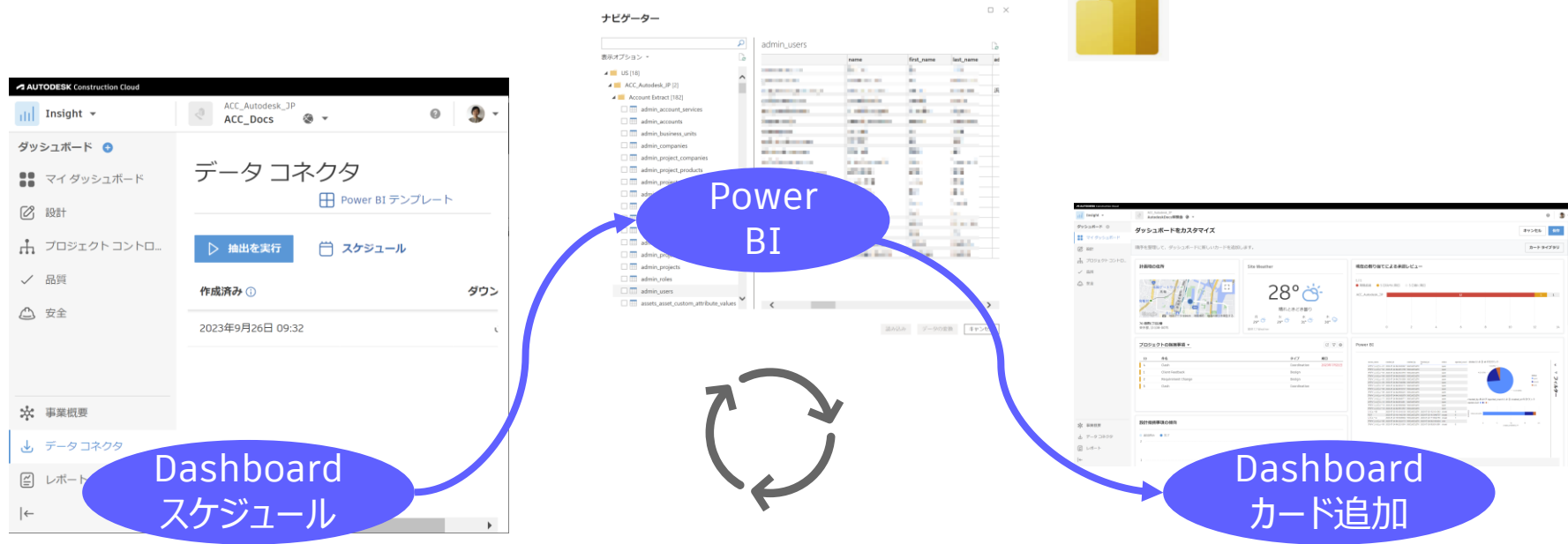
# [Insight] データコネクタ

- CSVのダウンロードロード



# [Insight] データコネクタ

- コネクタ  
データ抽出をスケジュールーPowerBI呼び出し



最新版のデータリフレッシュが容易



# [MyHome] Docsホーム画面

- <https://acc.autodesk.com/home>  
Docs内複数のプロジェクトを横断して参加しているプロジェクトを閲覧
- プロジェクトにかかわる様々な情報を自分用にカスタマイズ
  - プロジェクトマップ
  - 自分に割り当てられた指摘事項やレビューのステータスを確認
  - 最近使用したファイル
  - ブックマーク
  - その他カスタマイズ  
例：PowerBI等を利用し必要な情報を確認

The screenshot shows the Autodesk Construction Cloud MyHome dashboard. The interface includes a navigation bar with 'Account Admin' and 'Executive Insight'. The main content area is divided into several sections:

- 自分に関り当て** (Assigned to me): A section with a progress bar and filters for '指摘事項' (Issues) and 'レビュー' (Reviews).
- マイプロジェクト** (My Projects): A map of Japan with blue markers indicating project locations. A red callout box points to this map with the text: **担当しているプロジェクトマップ** (Project map of projects you are in charge of).
- 最近使用した項目** (Recently used items): A table listing recent files and projects. A red callout box points to this table with the text: **最近使用したファイル** (Recently used files).
- ブックマーク** (Bookmarks): A section at the bottom with links to 'BIMDesign' and 'BIMMERHUB'. A red callout box points to this section with the text: **ブックマーク** (Bookmark).

A large red callout box in the center points to the '自分に関り当て' section with the text: **自分に割り当てられた指摘事項や、レビューの作業状況を確認** (Check the status of issues and reviews assigned to you).

# [Insight] ダッシュボード

- Account Admin > Insight

Accountを横断して全プロジェクト情報を表示  
—アカウント管理者権限

- 事業概要（モジュールに応じて既定：支払、設計、品質、安全、プロジェクトコントロール）

+カスタマイズ

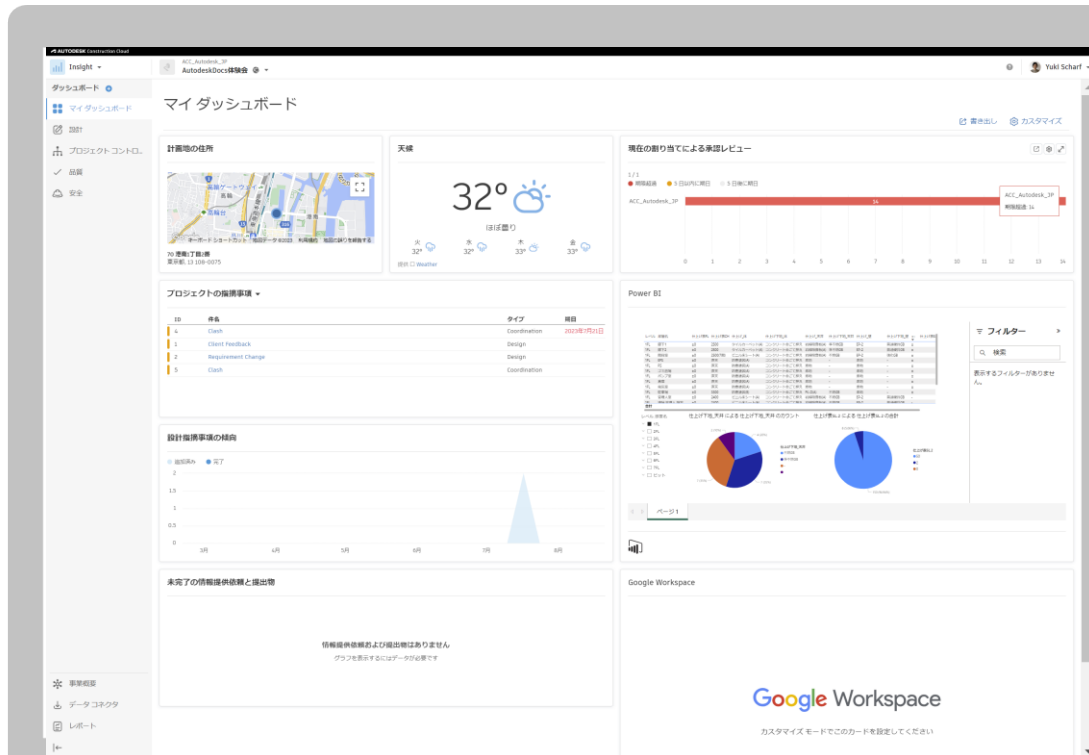
- Project Admin > Insight

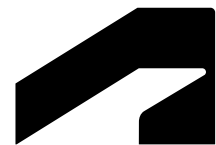
各プロジェクト向けに表示  
—プロジェクト管理者権限

- マイダッシュボード（自分用）

+カスタマイズ

プロジェクトメンバーと共有化



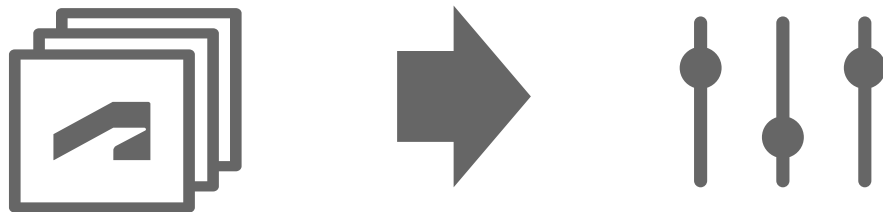


# プロジェクトデータ活用

# BIM/CDEによるDXへの意識改革

## BIM/CDE

= 建築業務プロセスの上で、**I**NFORMATION 情報を **B**UILD 構築する



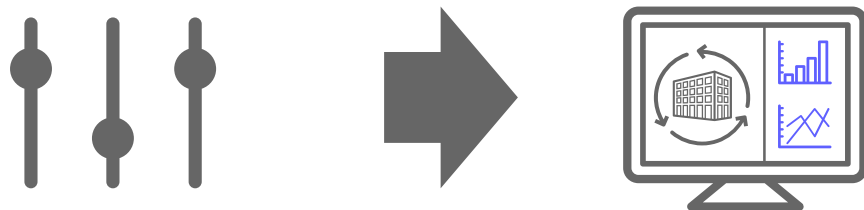
従来の図面情報伝達方法から、モデル内・外の **DATA** ※やり取りへ移行

※コンピュータが読める、構造化されたデータにより、プロジェクトデータドリブンへ



# DATAがあると？

データ分析、特に広い領域でビジネス分析ができる = **Insight**を得る



# データ活用を考える

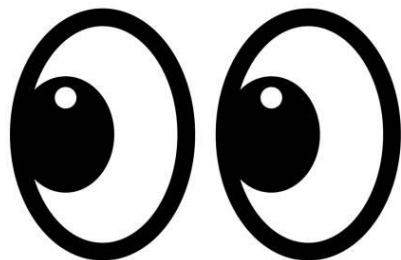
## 現場で使いたいデータの検討

- **誰が、何を分析する？**
  - アカウント/プロジェクト管理者
  - プロジェクト間/毎
- **目的と判断指標は？**
  - データ活用できそうなものはないか？
  - BIMデータなのか、CDEデータなのか？
  - 外部データの利用？
- **運用を決めて実行してみる**
  - 運用で対応できない
  - 始めから完璧を求めない

	目的	判断指標	運用とデータ
例①	指定提出ファイル漏れの改善	該当ファイルの提出の有無	フォルダ管理 ファイル数 命名規則
例②	設計業務での遅れの改善	設計マイルストーンの進捗報告	指摘事項 タイプ運用 ステータス

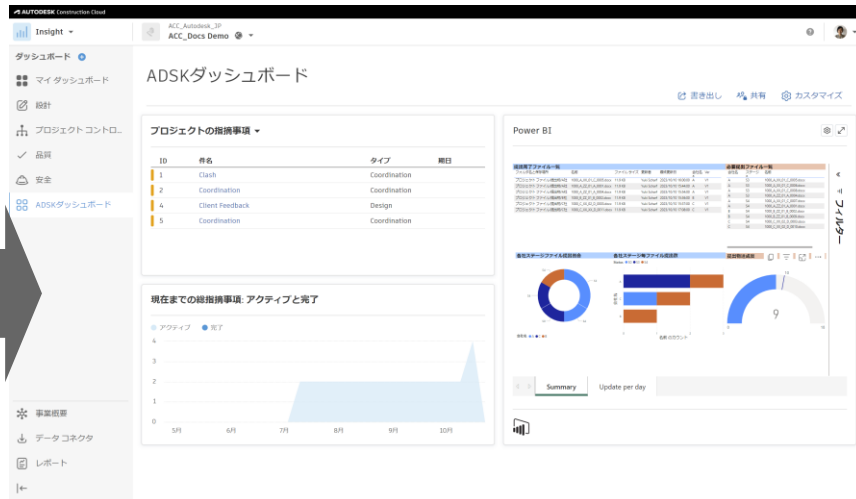
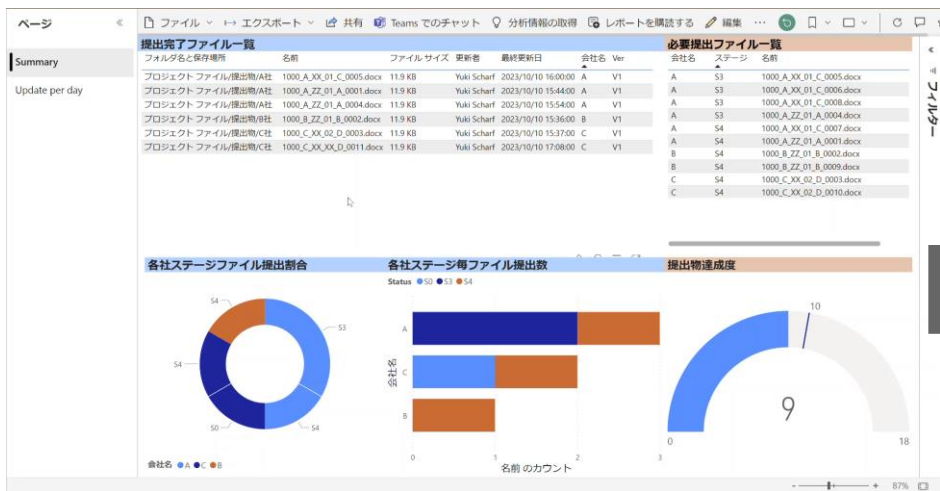
# Insight

物事の真相を  
見抜く**ヒント**を得る



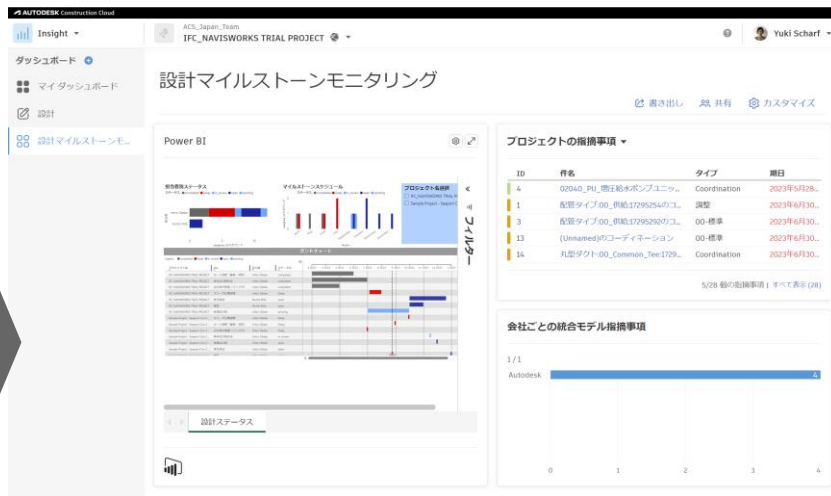
# プロジェクトデータ可視化

- 例① 指定提出ファイル漏れの改善



# プロジェクトデータ可視化

## ● 例② 設計業務での遅れの改善



# 本セミナー振り返り



## 共通データ環境 (CDE) 概要・目的

### CDE (Common Data Environment)とは？

#### 共通データ環境

誰がどこで定義？

マーヴィン・リチャーズ 英国規格協会 (BSI)  
BS1192-2007/BIP2207

※定義は歴史とともに改訂され、  
BS1192と置き換えられた、[PAS1192:2014 3.1.10](#)、[ISO 19650 3.3.15](#) で定義

定義？

任意のプロジェクト/資産に関する

- ・合意された、**単一の情報源 (SSOT)**
- ・多職種**チームへのアクセス承認**
- ・管理された**プロセス**
- ・全ての関連ファイル、文書・データ・収集の管理・配布が可能な環境

ポイント1 : BIM、CADプロジェクトに関わらず、**全プロジェクト情報源**となる

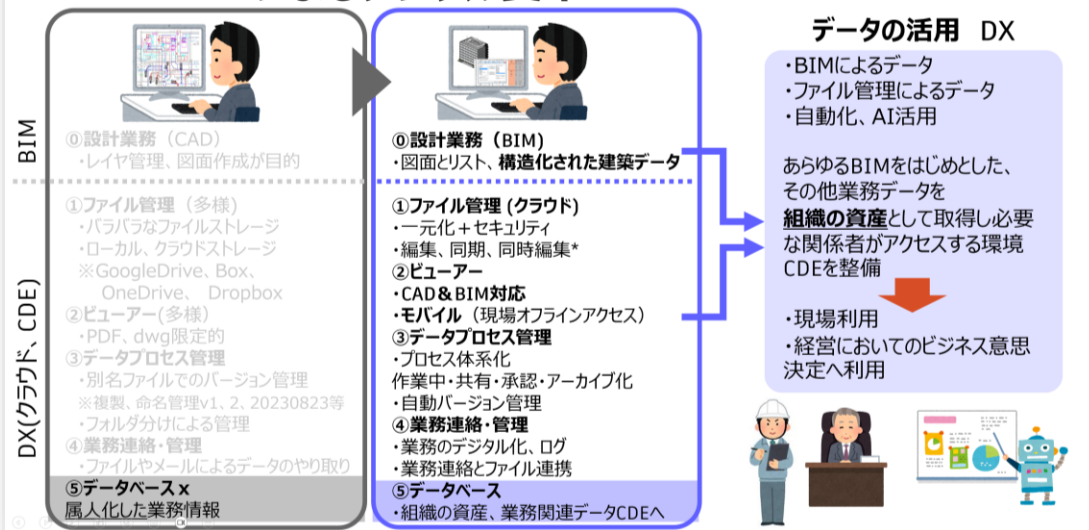
ポイント2 : **業務フローを明確にし**、ISOで定義されるような品質管理のための**PDCAサイクルを回せる環境**である

# 本セミナー振り返り



DXにおける  
CDEとは？

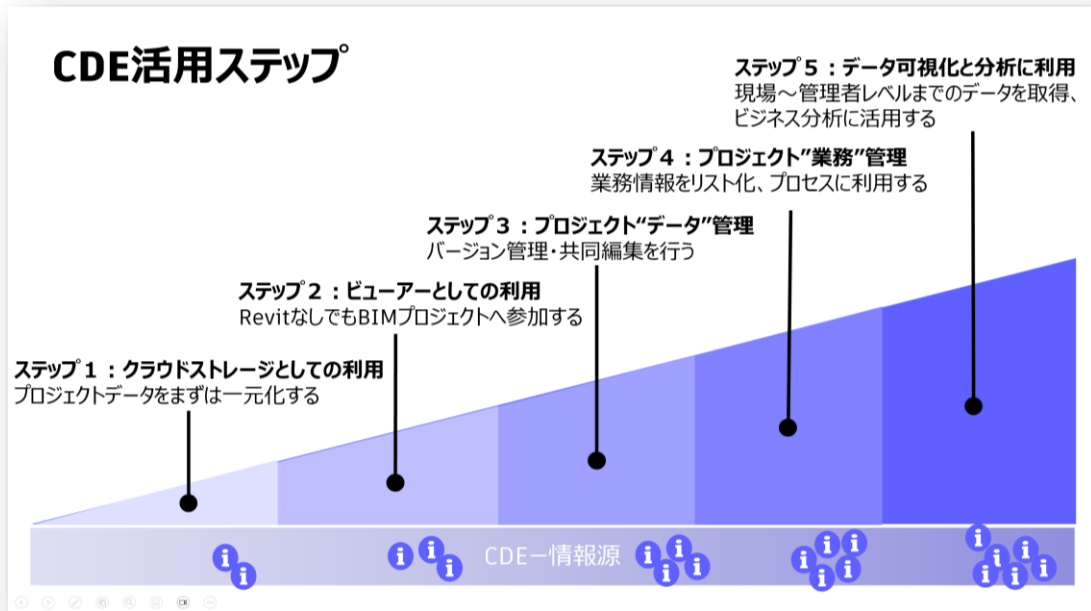
## BIM + CDEによるデジタル変革



# 本セミナー振り返り



## クラウド製品概要 + Autodesk Docs 活用5ステップ





# 本セミナー振り返り

データ分析、特に広い領域で  
ビジネス分析ができる = **Insight**を得る



プロジェクト  
データ活用思考

A screenshot of the Autodesk Construction Cloud interface. The main title is "設計マイルストーンモニタリング" (Design Milestone Monitoring). It features a Power BI dashboard with various charts and a Gantt chart. On the right, there is a table titled "プロジェクトの指摘事項" (Project Issues) with columns for ID, Item Name, Type, and Date. Below that is a section for "会社ごとの統合モデル指摘事項" (Consolidated Model Issues by Company).

ID	件名	タイプ	期日
4	02040_PN1_配管給水ポンプユニット	Coordination	2023年5月28日
1	配管タイプ00_供給17295254のコン	調整	2023年6月30日
3	配管タイプ00_供給17295292のコン	00-標準	2023年6月30日
13	(Unnamed)のコーディネーション	00-標準	2023年6月30日
14	丸型ダクト-00_Common_Tee:1729...	Coordination	2023年6月30日





**Autodesk Docsの活用どの  
ステップから始めてみたいですか？**

# 本セミナー内容



共通データ環境  
(CDE)  
概要・目的



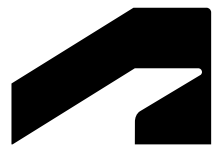
DXにおける  
CDEとは？



クラウド製品概要  
+  
Autodesk Docs  
活用5ステップ



プロジェクト  
データ活用思考



# CDE活用のための セルフサービス



# 過去のDXウェビナー

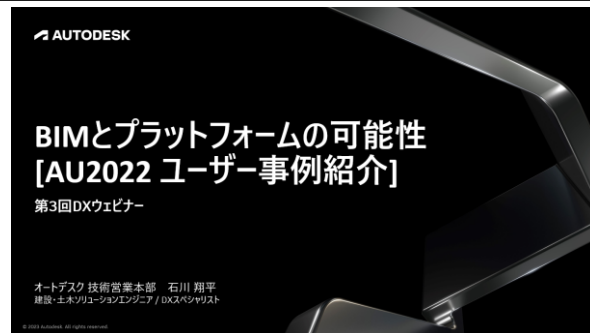
2022



<https://youtu.be/2QuNyWwtFEo>



<https://youtu.be/TfQFcGhZdbA>



<https://youtu.be/jxLKFARpldw>

2023



<https://youtu.be/QtHpxN3D91E>



<https://youtu.be/5gvvYBN15Ho>

# コラボレーションツールBIM360 活用ウェビナ

## YouTube再生リスト

The screenshot shows a YouTube playlist page. On the left is the YouTube navigation sidebar with options like Home, Shorts, and Library. The main content area features a video player for 'Autodesk Docs を使い始めよう!' with a duration of 50:16. Below the player are controls for 'すべて再生' (Play all) and 'シャッフル' (Shuffle). To the right is a list of 7 videos in the playlist, each with a thumbnail, title, and view count. The titles of the videos are: 1. Autodesk Docs を使い始めよう (50:16, 2881 views); 2. オートデスクのクラウド製品による ISO19650 対応 (vol.9) (56:56, 1000 views); 3. Revit や Navisworks と連携！ オートデスクのクラウド製品活用 (vol.8) (50:14, 1066 views); 4. BIM じゃなくても使える！ オートデスクのクラウド製品活用オンラインセミナー (vol.7) (58:11, 925 views); 5. 第6弾 コラボレーションツール BIM 360 活用オンラインセミナー (53:33, 1444 views); 6. 第5弾 コラボレーションツール BIM 360 活用オンラインセミナー (53:57, 1379 views); 7. 第4弾 コラボレーションツール BIM 360 活用オンラインセミナー (49:18, 1536 views). The 8th video is partially visible at the bottom: 第3弾 コラボレーションツール BIM 360 活用オンラインセミナー (2020年6月15日ライブ配信).

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLDMYeRRM4zCO\\_ChZcnIFzfv1T2sMoNogu](https://www.youtube.com/playlist?list=PLDMYeRRM4zCO_ChZcnIFzfv1T2sMoNogu)

# ヘルプページ

<https://help.autodesk.com/view/DOCS/JPN/>

- 最新機能などの情報は、ヘルプページでまとめられています
- 困った場合は、まずヘルプページをご確認ください。
- 画面右上の「？」からヘルプページに移動できます



The screenshot shows the Autodesk Docs help site in Japanese. The page title is "Autodesk Docs ヘルプサイトへようこそ". The left sidebar contains a navigation menu with the following items:

- Autodesk Construction Cloud の詳細はこちら
  - + Autodesk Construction Cloud™ について
  - + 動作環境
    - 製品とツールの制限事項
    - サポート対象言語と基本設定
    - ヨーロッパのデータセンターに関する FAQ
    - サポートに連絡する
- + 体験版およびサブスクリプション
- + 新機能
- + 概要 - PlanGrid Build モバイル アプリ
- + Autodesk® Docs
- + 管理
- + ファイル
- + レビュー
- + 転送パッケージ
- + 指摘事項
- + レポート
- + ブリッジ
- + メンバー
- + Insight
- + Desktop Connector

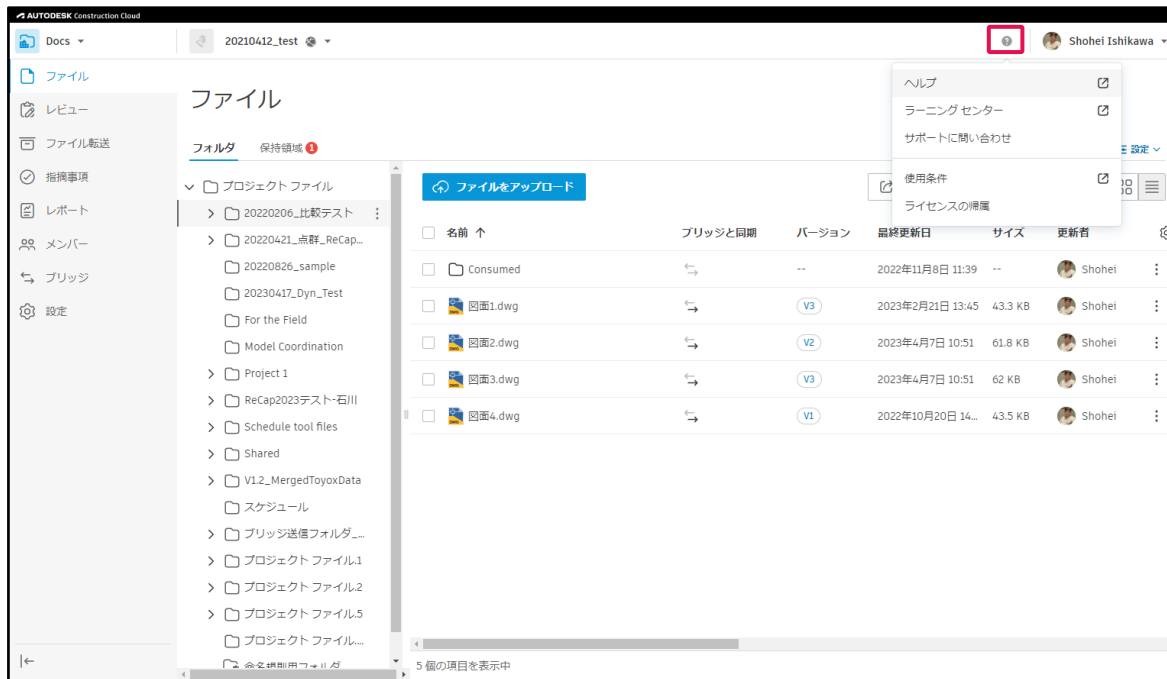
The main content area features a large image of a person in a high-visibility vest working on a laptop displaying a 3D model. Below the image, there are two columns of links:

- 基本**
  - Autodesk Docs について
  - ファイルとフォルダの管理
  - レビュー用にファイルを送信する
  - 送付状の作成
- 役に立つリソース**
  - Autodesk Construction Cloud の Web サイト
  - 建設ブログ
  - カスタマー サクセス ラーニング ハブ
  - Autodesk Construction Cloud ラーニングセンター

# ヘルプページ

<https://help.autodesk.com/view/DOCS/JPN/>

- 最新機能などの情報は、ヘルプページでまとめられています
- 困った場合は、まずヘルプページをご確認ください。
- 画面右上の「？」からヘルプページに移動できます





# クラウドセキュリティ等に関して

- Autodesk Construction Cloud 製品のセキュリティコントロール
  - 転送中の認証および暗号化
  - 保存されたデータの暗号化
  - 管理者のコントロール権限 等

詳細に関しては  
セキュリティホワイトペーパーをご確認ください。[こちら](#)

- クラウド製品正常性ダッシュボード；
  - Autodesk クラウド サービスのステータスについては  
正常性ダッシュボードを確認ください。  
<https://health.autodesk.com/>
- クラウド製品以外のセキュリティに関して；  
Autodesk Trust Center >セキュリティをご利用ください  
[こちら](#)



